Ⅳ　第一子誕生後の縦断的データの分析

1．母親の養育態度と父親・母親の子どもに対する評定

生後３・４ケ月時，７・８ケ月時，１２・１３ケ月時の３回，家庭訪問を行った時に母親を対象に養育態度について質問調査する。調査内容（資料４，５，６）は３・４ケ月時のものは，他の２回と一部内容が重複している。また，７・８ケ月時と１２・１３ケ月時の調査は同一内容である。さらに，父親と母親を対象に子ども対する感情，子どもの性格などについて評定を求める。これは３回とも同一内容となっている。本報告においては，３回に亘る母親の養育態度と父母の子どもに対する評定の変容について検討する。

なお，調査項目は三宅らのものを使用する。

（1）母親の養育態度と子どもに対する評定

a 子どもと母親の生活

表Ⅳ－１～３は，子どもの状態と母親の関わりの状況について，月齢による変化について見たものである。

母親の子どもの状態への配慮の仕方は月齢の違いにより明らかに異なっている。また，子どもの状態の違いによる対処の仕方にも月齢による違いが明らかに認められる。このような対処の違いには子どもの目覚めている時間の違いや泣きの頻度における発達的な違いが関与していることが生活時間調査の結果から示唆される。

b 社会環境と子どもの反応

表Ⅳ－４～６は，社会環境と子どもの反応について見たものである。ここでは社会環境として来訪者の有無および買い物に連れていって貰う機会についてみる。これらは人的及び物的な刺激に触れる機会の指標となるものである。子どもの月齢が上昇するに従い子どもの社会環境は豊かになっている。また，身近な存在としての母親及び父親について，他の人と区別しているかどうかを見ると，３・４ケ月時において全ての対象児は母親を他の人と完全に区別しているとするが，父親については明らかに区別しているとするものは約６割に過ぎない。

c 父親の育児参加

母親が父親の育児参加の頻度について評定を求めた結果を示したのが表Ⅳ－７である。「いつも言われなくともする」に１点，「ときどきする」に２点，「ほとんどしない」に３点を与えて得点化したものである。月齢による有意な変化はいずれの育児行動においても見られない。父親が比較的参加する育児行動は，「おむつの交換」「風呂に入れる」「遊

ぶ」である。あまり参加しないものは「食事の世話」である。各月齢の評定の相関をみるとほとんどの行動に有意な相関関係があり，３・４ヶ月時の父親の育児参加の状態がそのまま継続されることを示している。

d 母親の子どもに対する感情

対になっている感情語を呈示し，どちらにより近い感情をもっているかについて５段階評定を求める。右端の感情を肯定する場合には１点を配し，左端の感情を肯定する場合は５点を配する。各月齢の平均点を示したのが表Ⅳ－８である。

母親はいずれの月齢においても「可愛い」「丈夫だ」「抱きしめたい」「いきいきしている」「手がかからない」「美しい」としており，月齢による有意な変化は認められない。「静かである」については月齢の上昇により「やかましい」の方向に変化が認められるが，有意差は認められない。また，各月齢間の相関を見ると「可愛さ」については，３・４ヶ月時の感情はそれ以降の月齢における感情と有意な相関関係が認められる。「いきいきしている」については３・４ヶ月と１２・１３ヶ月の間に有意な相関が認められる。しかし，他の感情については３・４ヶ月の感情がそれ以降の月齢時の感情を予測することは出来ないことを示している。しかし，７・８ヶ月と１２・１３ヶ月の間には「抱きしめたい」「手がかからない」「美しい」について有意な相関関係が認められ，１２・１３ヶ月時の子どもへの感情は，３・４ヶ月時からよりも７・８ヶ月からの予測性が高いことを示している。

e 母親による子どもの性格評定

子どもの性格の評定についても感情の評定と同様に５段階評定を求め，同様な得点化の手続きをとり，平均値を示したのが表Ⅳ－９である。いずれの月齢においても３点に近い平均点となっており，母親自身が子どもの性格を比較的中庸的に受け止めていることを示している。各月齢間に有意差は見られないが，「きむずかしい－のんきそう」および「ねばり強い－あっさりしている」については月齢が上昇するにつれ「きむずかしい」「ねばり強い」方向に評価される傾向が認められる。

各月齢における相関関係についてみたのが，表Ⅳ－１０である。３・４ヶ月と７・８ヶ月および３・４ヶ月と１２・１３ヶ月では前者の方に多くの有意な相関関係が見られる。また，３・４ヶ月と１２・１３ヶ月および７・８ヶ月と１２・１３ヶ月についてみた場合は後者の方に多くの有意な相関関係が認められる。このように子どもに対する母親の性格評定は余り長期に亘って安定したものでないことを示している。これは先に述べたように母親自身が明確な評定が出来ないことが関係しているものと考えられる。

f 子どもの機嫌のよさ

子どもの気質の１つになだまりやすさがある。７・８ヶ月および１２・１３ヶ月時に子どものなだまりやすさについて評定を求めた，平均点および相関係数を示したのが表

Ⅳ－１１である。なだまりやすさについて４段階評定をもとめ，「よくある」に１点を配し，「ない」に４点を配する。母親は子どもが泣くときにはそれなりの理由があると理解しており，また，相手をすれば比較的短時間でなだまり，扱いやすい子どもととらえられている。また，有意な相関は「扱いやすい」に認められたにすぎない。子どものなだまりやすさは必ずしも時間的な流れの中で安定したのもでないことを示唆している。

ｇ育児の過程における感情

母親が育児に関わる体験の中でどの様な思いを体験しているかについて見たのが表Ⅳ－１２である。ここでは，「よくある」から「全くない」までの４段階評定を求める。「よくある」に１点を配し，「全くない」に４点を配する。

月齢間に有意差が認められたものは，「子どもがいなければよいと思う」「自分のやりたいことができなくてあせる」「何となくイライラする」である。３・４ケ月と７・８ケ月の間には有意差は認められないが，３・４ケ月と１２・１３ケ月および７・８ケ月と１２・１３ケ月の間に有意差が認められ，出産後１年ほどたった段階で母親は子どもとだけの生活ではなく，母親自身の生活への渇望が顕著になってくることが示唆される。しかし，子育てそのものに対しては「充実感がある」とするものが多く，各月齢を通じて非常に肯定的に受け止められている。表Ⅳ－１３により各月齢間の相関を見ると，３・４ケ月と１２・１３ケ月間に比較して３・４ケ月と７・８ケ月および７・８ケ月と１２・１３ケ月の間に多くの有意な相関関係が認められることから，比較的短いスパンにおいては母親の育児に対する感情は安定していることを示している。しかし，育児が母親と子およびその家族との関係の中で営まれる関係であることを考慮するば，変容しうるものであることを示している。

（２）父親の育児参加と父親の子どもに対する評定

ａ父親の育児参加

父親の育児参加について父親自身の評定と母親による評定との相関について見たのが表Ⅳ－１４，１５，１６である。母親の場合と同じ様に育児への参加の頻度について３段階評定を求め，「いつも習われなくともする」に１点，「ときどきする」に２点，「ほとんどしない」に３点を与えて得点化したものである。どの月齢においても父親が比較的よく参加している育児行動は「風呂に入れる」「遊ぶ」であり，めったに参加し無いのが「子どもと２人で留守番」をすることである。車社会といわれる今日，親子３人で出掛ける機会の方が日常化しており，父親と子どもが２人で留守番するという状況そのものがほとんどないことに起因している。「食事の世話」「散歩」などの頻度は月齢の上昇により増加する傾向が認められるが，有意差は認められない。母親の評定でも見られたように父親の育児への参加は子どもの発達・成長により顕著に変化することはない。

各月齢間の相関をみると，表Ⅳ－１５に見られるように全ての育児行動において７・８

ケ月と１２・１３ケ月の間に有意な相関が見られる。３・４ケ月時における父親の育児参加の頻度が必ずしもそのまま継承されるものではないことを示し，母親の結果と異なる。

次に父親と母親の評定の結果について各月齢時における相関を見たのが表Ⅳ－１６である。「遊ぶ」以外の全てに有意な相関が認められ，両者の認識が高い一致を持つことを示している。両者の平均点を比較した場合には「遊び」以外の育児行動の全ての評定点は父親の方が低くなっており，父親の方が母親が考えるよりも多く参加していると認識する傾向にある。しかし，「遊び」に関してはむしろ母親のほうが高く評定している。

d父親の子どもに対する感情

子どもに対する感情について見たのが，表Ⅳ－１７である。評定点は１から５点に分布し，数値が小さいほど対になっている右端の感情を肯定することを意味する。

父親は子どもに対して「可愛い」「丈夫だ」「抱きしめたい」「いきいきしている」という肯定的な感情持つと共に「静かである」「手がかからない」「美しい」についてはそれほど肯定はしていない傾向が認められる。各月齢間に有意差が認められたのは「静かーやかましい」のみであり，３・４ケ月時に比較して７・８ケ月時に子どもに対して少し「やかましい」と言う感情を持つようになる。また，「せわがやける」という感情も３・４ケ月時に比較して７・８ケ月時に子どもに対していだく傾向が認められる。他については月齢による有意な変化は認められない。

各月齢間の相関を見たのが表Ⅳ－１８である。７・８ケ月と１２・１３ケ月の間に多くの有意な相関が認められ，７・８ケ月時に子どもに対して抱く感情がその後にも継承される可能性のある事を示している。

c父親による子どもの性格の評定

父親が子どもの性格をどのように評定しているかについて見たのが表Ⅳ－１９である。評定得点が低いほど対になっている右端の性格特性が強いことを意味している。月齢間に有意差が認められた特性は「気が強いー気がやさしい」「きかなそうだーすなおそうだ」であり，月齢が増すに従って「気が強い」「きかなそうだ」と受け止める父親が多くなっている。また，いずれの月齢においても共通に認められる傾向としては「明るい感じ」「あたたかい感じ」であるが，「神経が太いー神経質である」「気むずかしいーのん気そう」「ねばり強いーあっさりしている」「男らしいー女らしい」についてはどちらとも言えないとするなど，父親自身の子どもの性格評定はまだ中庸傾向が顕著に認められる。これは母親においても認められた傾向であり，子どもの性格評定において両者間に顕著な差異は認められない。

月齢間の関連を見たのが表Ⅳ－２０である。「活動的だーおっとりしている」については各月齢を通して有意な相関が認められる。他の特性については３・４ケ月と１２・１３ケ月の間には有意な相関は認められず，３・４ケ月と７・８ケ月および７・８ケ月と１２

・１３ケ月においては幾つかの特性間に有意な相関関係が認められる。先に平均値を見たときには各月齢間における変動が認められない。しかし，このように月齢間による有意な相関が余り見られないことから，個人のレベルにおける評価の安定性は余り無いことを示している。

（3）まとめ

子どもの養育環境は，子どもの月齢の上昇につれ社会的刺激が豊かになっている。３・４ケ月時における子どもの母親と父親の認知をみると母親についてはすべての子どもが明らかに認知している。母親に比較すればその比率は低いものの６０％の子どもが父親を認知しており，父親の育児参加と子どもの父親の認知の関係が示唆される。母親の評定では３・４ケ月時の父親の育児参加は１２・１３ケ月時にも継続される傾向が認められる。しかし，父親の自己評価ではそれ程長い期間に亘る一貫性はなく，７・８ケ月時と１２・１３ケ月時に有意な相関が認められるにすぎない。父親の育児参加は妊娠時に夫婦の間で話されていたものよりも多岐に亘っている。母親の評価と父親の自己評価には有意差は認められないが，母親の評価の方が父親よりも父親の育児参加を高く評価している傾向が認めらる。これらのことから子どもの養育環境は子どもの月齢の変化に対応して良好な変化を示すと共に連続性と一貫性が図られていることを示している。母親は自分の育児体験については全体的には充実感があると肯定しながらも子どもの月齢が上昇するに連れ，母親自身の生活時間も確保したいという思いも明確になってくる傾向がある。このような母親の思いが，１２・１３ケ月以降の子どもとの生活の中での解決のされ方については，今後の継続研究の中で検討される必要がある。

父親と母親の子どもに対する評定について見ると，いずれも子どもに対して明らかに肯定的な感情を持っている。これらの感情は子どもの月齢の上昇による変化は余り顕著には認められない。しかし，月齢間にはそれほど多くの有意な相関は認められず，個人のレベルでは子どもへの感情は子どもの月齢の上昇によりかなり変化するものといえる。また，子どもの性格については父親も母親も中庸的にとらえている傾向が認められる。しかし，子どもの月齢の上昇により性格の評価は性向についてやや鮮明さを増す傾向がある。性格の評価も感情と同様にあまり長期間にわたる有意な相関は認められない。子どもの気質的側面の指標として父親と母親による子どもの評定を見た場合，あまり顕著な気質的特性を有した対象児は見られない。

２．実験場面の行動評定

３・４ケ月時，７・８ケ月時，１２・１３ケ月時の３回に亘って家庭訪問を行い，実験場面における父親と子ども，母親と子ども，見知らぬ人と子どものそれぞれのペアーの行動評定を行う。家庭訪問の日時については予め電話で対象児の体調の好い日時と父親

の在宅を確認して決める。家庭訪問は女性２名が行う。１名は実験場面で子どもの表情をＶＴＲカメラで撮影することと実験開始前および実験終了後の子どもの様子を撮影する役割を負う。他の１名は実験場面における父親と子どもおよび母親と子どもの様子をＶＴＲカメラで撮影する。さらに，実験場面では見知らぬ人の役割を演じる。全ての家庭および全ての実験場面において同一人が「見知らぬ人」役を演じる。実験終了後は父親と母親に対する面接調査者となる。実験場面の父親・子ども・母親の行動は全て２台のＶＴＲカメラに録画し，フィルムを再生視聴しながら行動評定を行う。

ＶＴＲカメラに対する緊張をとく意味もあって，父親と母親には子どもの行動を撮ることが目的であると説明する。実験の主たる目的は，半統制的な実験場面における父親と母親の子どもへの行動を評定することと子どもの父親と母親と見知らぬ人への行動を比較検討することにある。見知らぬ人を演じるものは，子どもに対して応答的に関わるよう意図するが，見知らぬ人の方から子どもに積極的な働き掛けはしないようにする。

（1）実験場面

Ａinsworthらは，子どもは愛着対象と同席している時には，愛着対象を安全基地として活用し，探索行動を活発化させるが，不安な状況におかれた時には愛着対象に対して愛着行動を活性化するとしている。特に実験的には愛着対象との短い分離を経験した後の再会場面において愛着行動が顕著に出現することを見いだしている。しかし，彼等により考案されたＳtrange Situation Procedureは，実験室での手続きであり，本研究協力者の子どもの年齢では，再三に亘って実験室に来所してもらうことに難しさがある。そこで，彼等の指摘する分離・再会場面を含む，次の６つのエピソードからなる実験場面を構成する。ここでは，父親と母親の子どもへの行動を評定することと子どもの父親と母親への行動を比較検討し，子どもの愛着行動については次項で扱う。

＜実験場面の構成＞

a　遊び場面（約３分間）

b　一人場面・分離場面（約１分）

c　呼び掛け場面（約３０秒）

d　再会場面（約３分）

e　身体的接触場面（約１分）

f　身体接触解除（約１分）

子どもの不安が強いなど子どもの状況により各エピソードの所要時間は短縮若しくは延長する。

（2）子どもの行動評定項目

実験場面における子どもの行動について分離前および分離後の父・母・見知らぬ人との場面における子どもの行動については以下の９項目について５段階評定を行う。頻

度および程度が高い場合には５点を配し，その行動がほとんど認められない場合には１点を配する。また，一人で残された場合や父親・母親・見知らぬ人からの呼び掛け場面の行動については４項目について５段階評定を行う（資料№１１参照）。

１）分離前および分離後の行動評定項目

ａ泣きとむずかり

明らかな泣きでその持続が長い場合には５点を配し，泣きやぐずりが全く認められない場合には１点を配す。

ｂなだまりやすさ

ぐずったり，泣いたりした場合も自分で立ち直れた場合は５点を配し，父母や見知らぬ人が抱っこしたりしても泣きやぐずりの状態が解消しない場合には１点を配す。

ｃ子からの身体接触

子どもの方から父母や見知らぬ人に身体的接触を求め，その接触が比較的長時間続く場合は５点を配し，子どもの方からの身体的接触が見られない場合には１点を配す。

ｄ機嫌のよさ

機嫌がよく，表情も豊かな場合は５点を配し，ぐずったり，泣いたりがしばしば認められる場合は１点を配す。

ｅ発話

子どもの方から父母や見知らぬ人に対して発声がしばしば認められる場合は５点を配し，発声が全く見られない場合は１点を配す。

ｆ活動水準

子どもが手足を動かしたり，発声が多く，生き生きした印象を与える場合は５点を配し，手足の動きも発声もほとんど認められない場合は１点を配す。

ｇ相互交渉のたのしさ

父母や見知らぬ人からの働き掛けを肯定的に受け入れ，相互交渉をたのしんでいる場合５点を配し，父母や見知らぬ人からの働き掛けを拒否するなど否定的な反応をする場合は１点を配す。

ｈ働き掛け

父母や見知らぬ人からの反応を期待して子どもの方から積極的に発声したり，動作などによる働き掛けをする場合は５点を配し，子どもの方からの働き掛けがほとんど認められない場合は１点を配す。

２）呼び掛けと再会した場合の評定行動項目

ａ活動性の増減

前場面の活動性に比較して当該場面での活動性が顕著に増加した場合は５点

を配し，逆に活動性に顕著な減少が認められた場合には１点を配す。

b 泣きとむずかり

明らかな泣きでその持続が長い場合には５点を配し，泣きやぐずりが全く認められない場合には１点を配す。

c 父母や見知らぬ人を探し求める

明らかな後追い行動が認められる場合は５点を配し，後追い行動が全く認められない場合１点を配す。

d 活動水準

子どもが手足を動かしたり，発声が多く，生き生きした印象を与える場合は５点を配し，手足の動きも発声もほとんど認められない場合は１点を配す。

（２）各月齢間における子どもの行動変容

各エピソード毎に母親，父親，見知らぬ人に対して子どもが示した行動の発達的変化について見る。

１）母親との場面

＜分離前＞

分離前の行動評定において各月齢間に有意差が認められたのは，子どもの方から積極的に母親の反応を期待して働き掛ける「働きかけ」行動であり，７・８ヶ月に有意に高い頻度で認められる。また，「活動水準」は月齢の上昇により増加する傾向が認められる。他の行動には有意差は認められない。

＜一人場面＞

一人で部屋に残された場合，月齢の上昇により活動性は減少する傾向が認められ，一人で残されることが子どもの活動性を抑制する傾向にあることを示している。退出した母親を探し求める行動は月齢の上昇により顕著になる傾向がうかがえる

＜呼び掛け場面＞

母親の呼び掛けに対して母親の声のするほうに振り向いたり，母親の呼び掛けに子どもが発声をしたり，移動可能な場合には声のする方に移動するなどの行動は子どもの月齢の上昇につれ顕著になる。また，１２・１３ヶ月時には，母親の呼び掛けや母親の姿を見ることによって，子どもの「活動水準」は明らかに活性化する。

＜分離後＞

分離後の再会場面では，分離前よりも多くの行動に月齢間における有意差が認められる。月齢の上昇により活性化する行動は，「子からの身体接触」「発声」「活動水準」「働きかけ」である。また，減少する行動は「なだまりやすさ」である。「むずかり」「機嫌」「相互交渉のたのしさ」については月齢による変化は認められない。

2）父親との場面

＜分離前＞

分離前の行動評定において各月齢間に有意差が認められたものは，「なだまりやすさ」「子からの身体接触」である。前者は月齢の上昇により減少する傾向があり，後者は逆に上昇する傾向が認められる。他の行動には有意差は認められない。

＜一人場面＞

母親の場合と同様に子どもが一人で部屋に残された場合には，月齢の上昇により活動性は減少する傾向が認められ，一人で残されることによって子どもの活動性が抑制される傾向にあることを示している。退出した父親を探し求める行動は１２・１３ヶ月においてより顕著になる。また，７・８ヶ月における活動水準は他の月齢ほど顕著な減少は認められない。

＜呼び掛け場面＞

父親の呼び掛けに対して声のするほうに振り向いたり，子どもが発声をしたり，移動可能な場合には声のする方に移動するなどの行動および子どもの活動水準は，月齢の上昇につれ有意に顕著となる。

＜分離後＞

分離後の再会場面では，月齢間に有意差が認められる行動は「子からの身体接触」「活動水準」「相互交渉のたのしさ」である。これらの行動はいずれも，月齢の上昇により活性化する行動である。他の行動については月齢間における有意差は認められない。

3）見知らぬ人との場面

＜分離前＞

分離前の行動評定において各月齢間に有意差が認められたのは，「子からの身体接触」「機嫌」「発声」「相互交渉のたのしさ」である。「相互交渉のたのしさ」以外は，いずれも３・４ヶ月と７・８ヶ月の間に有意差が認められるものであり，いずれも７・８ヶ月時の方で活性化する。「相互交渉のたのしさ」については７・８ヶ月と１２・１３ヶ月の間にも有意差が認められ，７・８ヶ月の方が活性化する。他の行動には月齢間に有意差は認められない。

＜一人場面＞

有意差が認められる行動は，退出した「見知らぬ人を探し求める」行動であり，３・４ヶ月に比較して７・８ヶ月および１２・１３ヶ月に顕著に上昇する。他の行動については有意差は認められず，父母と異なっていることを示している。

＜呼び掛け場面＞

見知らぬ人の呼び掛けに対して声のするほうに振り向いたり，子どもが発声をしたり，移動可能な場合には声のする方に移動するなどの行動および子どもの活動水準は，月齢の上昇につれ有意に顕著となり，父母の場合と同様な傾向が認められる。見知ら

ぬ人の声掛けによって７・８ヶ月には活動性が３・４ヶ月よりも減少する傾向が認められる。この様な変化は父母の場合には認められないことから，聞き慣れない声に対して活動性が抑制された可能性が示唆される。

＜分離後＞

月齢間に有意差が認められる行動は「なだまりやすさ」「子からの身体接触」「相互交渉のたのしさ」である。「子からの身体接触」以外の行動はいずれも，月齢の上昇により減少する行動であり，「相互交渉のたのしさ」は７・８ヶ月と１２・１３ヶ月の間に有意差が認められ，１２・１３ヶ月のほうが見知らぬ人との交渉を喜ばない傾向が認められる。これは分離前にも認められた傾向であり，父母に対する行動とは明らかに異なっており，両者の対人関係の違いを反映しているものと推察される。

４）父親と母親と見知らぬ人に対する子どもの行動の比較

＜分離前＞

有意差が認められた行動は７・８ヶ月時の「働き掛け」のみであり，子どもは見知らぬ人よりも母親により多く働き掛ける傾向が認められる。しかし，父親と母親と見知らぬ人に対する子どもの他の行動についてはいずれにも有意差は認められない。

＜一人場面＞

父親と母親と見知らぬ人に対する子どもの行動についてはいずれにも有意差は認められない。

＜呼び掛け場面＞

３・４ヶ月時には「活動性の増減」「活動水準」はいずれも父親よりも見知らぬ人との場面において子どもに活性化する傾向が認められる。同じく３・４ヶ月時には特定の「人を捜し求める」行動は見知らぬ人よりも母親に対して多く表出される行動である。１２・１３ヶ月時には特定の「人を捜し求める」行動は見知らぬ人よりも父親に対して多く表出される行動である。しかし，父親と母親と見知らぬ人に対する子どもの他の行動についてはいずれにも有意差は認められない。

＜分離後＞

７・８ヶ月時においては「発声」は母親よりも見知らぬ人に対して多く示される行動である。１２・１３ヶ月時には「相互交渉のたのしさ」と「働きかけ」はいずれも見知らぬ人よりも母親や父親に多く働きかける行動である。他のいずれの行動においても有意差は認められない。

（３）親の行動評定項目

分離前および分離後の場面における親の行動を評定するために，以下の８項目について５段階評定を行う。頻度および程度が高い場合には５点を配し，その行動がほとんど認められない場合には１点を配する（資料№１０参照）。

a 働きかけ

親から子どもへの働き掛けの多さを見る。絶えず言葉や玩具などによる働き掛けを行う場合は5点を配し，親からの働き掛けがほとんど見られない場合は1点を配す。

b 応答性

子どもからの働きかけに対していつも反応している場合は5点を配し，ほとんど反応が無い場合は1点を配す。

c 気配り

子どもに対して注意や関心を絶えず払い，子どもの気持ちに旨く添うように気配りをしている場合は5点を配し，親の考えを一方的に押し付ける場合は1点を配す。

d 関わりのスムーズさ

親と子の関わりが大変にしっくりいっている場合は5点を配し，相互交渉がほとんど成立しない場合には1点を配す。

e 関わりのたのしさ

親が子どもと関わることを大変楽しんでいる場合には5点を配し，子どものすることに対して拒否等が多く見られる場合には1点を配す。

f 子への接触

親の方から子どもと身体的接触を持つことが非常に多い場合には5点を配し，ほとんど親から身体接触を持つことがない，あるいは子どもの方から身体接触を求めてきてもさらっとした感じの身体接触を持っている場合には1点を配す。

g リラックス

親の行動がいつもと特に変わらない場合には5点を配し，ＶＴＲカメラを非常に気にするなど緊張が強い場合には1点を配す。

h 身体的遊び

子どもと遊ぶときに子どもの体を宙に放り上げるようにするなど身体的活動性が高い場合には5点を配す。またそのような身体的遊びが見られない場合には1点を配す。

1）母親の行動評定

＜分離前＞

月齢間に有意差が認められた行動は「関わりのスムーズさ」「子への接触」「身体遊び」であり，いずれも月齢が上昇するに連れ減少する傾向が顕著に認められる。「子への接触」が減少するのは，子どもの運動能力の発達が関与していることが推察される。つまり，7・8ヶ月以降の子どもたちはおすわりや移動が可能となっており，子どもの姿勢の保持などがバラエティに富む結果として母親の働き掛けが多様化したものと考えられる。

また，身体的遊びが１２・１３ヶ月に顕著に減少する理由の１つにも，運動能力の発達が考えられる。ほとんどの子どもが移動可能となっており，母親が意図的に身体遊びをする場合あるいは子どもが身体遊びを求めた場合に相手をしてやるのに対して，他の月齢時の身体遊びは抱っこした場合に子どもの体を揺すると言うことが多いことに起因しており，全体的な傾向として月齢による減少を来すこととなる。

＜分離後＞

月齢間に有意差が認められた行動は「応答性」「関わりのスムーズさ」「子への接触」である。応答性は７・８ヶ月に比較して１２・１３ヶ月の方が有意に高い応答性を示している。他の２つは，３・４ヶ月に比較して他の月齢の方が有意に低くなっており，これは分離前にも認められた傾向である。

2）父親の行動評定

＜分離前＞

月齢間に有意差が認められた行動は「働きかけ」「子への接触」「身体遊び」である。これらのいずれも子どもの月齢の上昇により顕著に減少する。後者の２つの行動については，３・４ヶ月時と７・８ヶ月時および１２・１３ヶ月時との間に有意差が認められる。これらの傾向は，母親にも同様に認められたものである。母親の場合に指摘したと同様の理由が父親の場合にも指摘される。

＜分離後＞

月齢間に有意差が認められた行動は「働きかけ」「応答性」「関わりのスムーズさ」「関わりのたのしさ」「子への接触」である。父親が子どもの働きかけに対して応答する頻度は３・４ヶ月に比較して１２・１３ヶ月の方が有意に高くなっている。また，「働きかけ」「関わりのスムーズさ」「関わりのたのしさ」は３・４ヶ月と７・８ヶ月の間に顕著な減少が認められるが，他の月齢との間には有意差は認められない。「子への接触」においては３・４ヶ月と７・８ヶ月および１２・１３ヶ月のいずれとの間にも顕著な差が認められる。

3）母親と父親の比較

＜分離前＞

「応答性」は全ての月齢において母親の方が有意に高く，「気配り」は３・４ヶ月時と７・８ヶ月時において母親の方が有意に高い。「身体的遊び」も７・８ヶ月時は母親の方が有意に高い。他の行動については有意差は認められない。

＜分離後＞

１２・１３ヶ月時の「応答性」にのみ有意差が認めら，母親の方が有意に高い。しかし，他の全ての行動に有意差は認められない。

（3）まとめ

実験場面において子どもが，母親と父親および見知らぬ人に対して示す行動と母親と父親が子どもに対して示す行動について子どもの月齢による変容および対象の違いによる差異について検討する。対象者別に月齢による変容について子どもの行動を見ると見知らぬ人への働き掛けに比較的多くの有意差が認められ，特に３・４ヶ月時と７・８ヶ月時との間に多くの有意差が見られ，７・８ヶ月時の方が子どもからの働き掛けが多く見られる。父親と母親の場合はあまり顕著な月齢による変容が認められないことが特徴といえる。また，父親と母親と見知らぬ人への行動における差異を見ると分離前より分離後の方に差異が見られ，特に相互交渉のたのしさや父親や母親からの反応を期待して働き掛ける行動はいずれも見知らぬ人よりも父親と母親に多く見られる。このような差異が明確になるのは１２・１３ヶ月時であり，Ainsworthらはこの年齢をいわゆる子どもが特定の対象に愛着を形成する時期としているものと一致しており，その意味では本結果で母親・父親と見知らぬ人に対して見いだされた行動の違いは，Ainsworthらの結果を支持するものとなっている。

父親と母親が子どもと関わる行動について見ると，分離前においては母親の方に子どもの月齢による差異が父親よりも多く認められる。父親に有意差が見られたものは母親においても同じく有意差が見られたものである。分離後においては逆に月齢間における有意差は父親の方に多く見られる。しかし，いずれの場面においても子どもに対する母親と父親の行動には月齢による有意差の見られないものの方が多い。母親と父親の行動を比較した場合は，応答性や気配りなどいわゆる子ども側の活動を助長するような効果が期待できる働き掛けは母親の方に多く認められる。このような母親と父親の行動の違いについては次章で検討する。

３．愛着の形成

先に述べた実験場面に分離後の再会場面で次の愛着行動がどの程度示されたかにより子どもの愛着関係についてみる。この前提には子どもは，愛着対象であるものに対して他のものに対するよりも多くの愛着行動を示すという考え方がある。Lamb は，Ainsworthらが愛着行動の中に微笑むや発声するなどの行動も含めているが，これらは親和行動として区別すべきであるとの指摘を行っている。その理由として愛着行動は，子どもと愛着対象との永続的な関係に根差した関係の中で表出されるものであるのに対して親和行動は子どもが好意をもっている人に対して表出する行動であるとしている。勿論，親和行動の表出は愛着関係が成立している関係の中でより多くなされるという特性を持っている。本研究ではLamb らの立場に立って，再会場面での分析においては愛着行動と親和行動をわけて扱う。Lamb らは愛着行動を６つの行動カテゴリーでとらえているが，「近接する」「手をのばす」という行動カテゴリーは本研究では使用しない。対象児の年齢が小さいという

こともあって，ほとんどの場合子どもと父・母・見知らぬ人の物理的距離が１メートル以内であることが多く，カテゴリーとして弁別効果が期待できないことによる。また，対象児が父・母・見知らぬ人に対して手を差し出す場合，その意図は身体的接触を得ることにあるためこの行動は「だかれたがる」行動の指標の１つとして扱うこととする。ここでも愛着行動の基本的定義は，父・母・見知らぬ人との身体的接触要求と密接に結び付いた行動とする。また，親和行動は，子どもが父・母・見知らぬ人と相互交渉をもつことを意図して表出する行動とする。

また，愛着行動はいずれも愛着対象との身体的接触を遂行することを目的として表出される行動であり，その目的を達成若しくは途中放棄するまでである時間幅をもって持続する行動である。そのため愛着行動のカウントは，１０秒のタイムサンプリングによって行う。一方，親和行動の持続時間は比較的短く，１回１回の行動の表出が相互交渉的意味を持っているため，それらの行動の表出の絶対頻度をカウントする。

＜愛着行動＞

泣く・むずかる

接近する……子どもが父・母・見知らぬ人に向かって近付く移動行動

抱かれたがる……抱いて貰いたくて父・母・見知らぬ人に両手を差し出す

接触する……子どもの方から開始する身体接触

＜親和行動＞

ほほえむ

声を出す（快・不快を含む）

注視する

笑う

物を差し出す

父母のどちらにより早期に愛着を成立させるかについては，父親よりも母親に対して早期に愛着を成立させるとするもの（例えば，Cohen & Campos ）や両親に対して有意差はない（例えば，Feldman & Ingham ）とする研究があり研究によって異なり，この件に関してはまだ結論は出されていない。本研究においては，子どもが特定の人に対して愛着を形成していないとされる３・４ヶ月から研究を開始し，子どもが最初の愛着を形成するといわれる７・８ヶ月，さらに強固な愛着を形成するといわれる１２・１３ヶ月まで継続研究を行うことにより，子どもの愛着の形成過程について見る。さらに，見知らぬ人についても同様な手続きを挿入し，父母への愛着の形成過程をより明らかにする。

分離場面あるいは分離後の再会場面において強い泣きが１分以上継続するなどの混乱が子どもに認められる場合には実験場面を短縮したり，割愛する。

まず，実験場面の実施状況について，特に各場面が完全に実施出来たか否かについてみる。ついで，各エピソードが完全に実施できたものを対象として父・母・見知らぬ人に対する愛着行動および親和行動の表出における差異について検討する。最後に，各エピソ

ードが完全に実施出来たものと出来なかったものの２群に対象児を分け，両群における子・父・母の行動評定の結果について比較検討する。

（１）実験場面の実施状況

＜３・４ヶ月時＞

母親との実験場面においては２名の対象児の泣きが激しいために分離後の場面を短縮する。父親との実験場面においては全ての対象児について実験場面を短縮することなしに実施する。見知らぬ人との実験場面においても２名の対象児の泣きが激しいために分離後の場面を短縮する。母親との実験場面を短縮した対象児についてみると，１名の対象児の場合は，分離前には父親の時ほど上機嫌ではなかったが，発声も多くかなり機嫌のよい状態にあったが，再会後に泣きが見られ，抱っこされると間も無くなだまる。しかし，途中から泣きが激しくなる。母親により泣きの原因が，空腹によるものとされたため実験を中断する。他の１名は泣きの原因が眠たいためとされ，実験を中断する。見知らぬ人との実験は前者の場合は授乳後に実施し，後者の対象児については後日実施する。これらのいずれの対象児の場合も見知らぬ人との実験場面は，中止せずに行う。

次に，見知らぬ人との実験場面を中止した対象児についてみる。１名の対象児の場合は，分離前の父母との実験場面ではぐずりや泣きは全く見られないが，見知らぬ人との実験場面では，分離前の場面で泣きが出現する。そして，分離後の場面ではさらに泣きが強まり，だっこの効果が認められなかったため実験を中止する。中止後，母親に抱っこされると直ぐになだまる。子どもの状態が少し落ち着いてから見知らぬ人が対象児を抱っこすると再び激しく泣き出す。他の１名の場合も，見知らぬ人から父親に対象児を手渡すと直ぐになだまる。これら２名の対象児については，母親の報告では対象児は父親と母親を他の人から明らかに識別しているとしている。これらのことを考え合わせると，この２名の対象児のいずれも従来言われているよりも早い時期に父母に対して愛着関係を成立させていることが示唆される。また，家庭訪問時の面接調査では６０％以上の対象児が，父親と母親を他の人と明らかに区別していると回答しており，従来言われるよりも早い時期に乳児と両親の間に愛着関係が成立している可能性が考えられる。

母親との実験場面の中止の原因は，空腹，眠気などいずれも対象児の生理的レベルの状態による。この２名の場合はいずれも母親が父親のつぎに行っており，父親との時は生理的状態が良好であったが，母親の時までその状態が保たれなかったことに起因している。しかし，見知らぬ人との実験は最後に行っているために，父親もしくは母親との場面で対象児の生理的状態が悪くなった場合には，状態の回復を図ってから実施したため生理的状態のために場面を中止するという事態の発生はない。

＜７・８ヶ月時＞

母親および父親との実験場面においては全ての対象児について実験を短縮せずに実施する。しかし，見知らぬ人とのエピソードにおいては２名の対象児の泣きが強いた

めに分離前の最初の遊び場面の途中で実験を中止する。いずれの対象児も母親に抱っこされると直ぐになだまる。１名は，３ヶ月時にも見知らぬ人との実験場面を中止した対象児である。他の１名は母親との面接時に「見慣れない場所（よその家など）に行ったときに，慣れるまでにかなり時間がかかる」とされている対象児であり，さらに，この対象児が好きでない人は「眼鏡をかけた人」ということである。たまたま見知らぬ人が眼鏡を掛けており，その条件を満たしていたことも原因となって対象児に強い情動反応を引き起こしたものと考えられる。一般的には７・８ヶ月時には人見知りが現れ，子どもにとって愛着対象が明確になる時期であるといわれているが，この２名以外の対象児には実験場面の継続が不可能になるほど激しい動揺を表出したものはない。

家庭訪問時の面接調査により，よその人一般に対する反応を見る（複数回答可）と，「まじめな顔をして相手を見る」（６９．２％）と「かすかにほほえむ」（４６．２％）の２つとなっており，泣くと言うような強い情動を示す反応は指摘されていない。また，「特に，こう言う人は駄目」と言うように特定の特徴をもった人に対する固有な不安反応があるかどうかを聞いた結果では，半数近い対象児にはそういう人がいるとしている。どのような条件を備えた人であるかをみると，「男の人」とするものが一番多く，ついで「大声の人」あるいは「声の低い人」を上げている。見知らぬ人がこれらの条件を持ち合わせていなかったために，多くの対象児に情緒的混乱を与えなかった可能性が考えられる。この月齢時においては見知らぬ人の役割を演じる人の属性によって，結果が左右される可能性が推察される。

＜１２・１３ヶ月時＞

母親との実験場面においては実験を中止した対象児は１名である。この対象児の場合は，第一回目の実験は父親と一緒に行い。ついで母親との実験を行うが，父親との実験時から身体接触要求が強く，父親の膝から降りれず，身体接触を得ている時には泣きやぐずりは特に認められない。しかし，父親が少しでも対象児を膝から離す素振りをすると不安な様子を示すために実験を中止した対象児である。母親との実験場面でも母親の膝から降りれず，父親の場面と同様の行動傾向を示したため実験を中止する。また，父親との実験場面においては２名の対象児について実験を中止する。１名は母親との実験を中止したものであり，他の１名は，分離後の再会場面の途中で対象児がＶＴＲカメラに興味をもって近付いた時に，父親がわざと大きい声で注意を与えたところ激しい泣きの状態に陥り，父親ではなだめられなくなったためにエピーソドを中止する。見知らぬ人との実験場面においては約半数の６名の対象児の泣きが激しいために分離後の場面を短縮する。内１名の対象児については，父・母との分離ができなかったために見知らぬ人との実験場面の実施そのものを中止する。さらに，分離前の遊び場面の途中で中止したもの２名，分離後の再会場面を短縮したもの３名となっている。これら６名のいずれも父母のいずれかに抱っこされると直ぐになだまりを得ていることからこれらの６名のものは，この時点において父母に対して愛着を形成していることが明白に認められる。なお，これらの中には先

に７・８ヶ月時に見知らぬ人との実験場面を中止したものは含まれておらず，７・８ヶ月時に母親に対して顕著な愛着関係を持っていた対象児が，この時期には見知らぬ人との実験場面を中止するほどの強い情動的混乱に陥らなっかたということは，早期に愛着関係を成立させることが社会的発達を促進させる可能性をもつことを示唆している。

母親，父親，見知らぬ人との実験場面の中止状況からみると母親と父親の間には顕著な差異は認められないが，見知らぬ人と父母の間には明白な差異が認められ，それらの差異は子どものなだまりの状態からみて愛着関係の成立と関係するものであることが明らかとなる。また，月齢との関連を見ると３・４ヶ月時において明らかに父母に対して愛着を形成しているものが見られるが，その比率は低い。また，３・４ヶ月時に父母に強い愛着を示したものは，７・８ヶ月時においても強い愛着を示す。しかし，７・８ヶ月時に父母に強い愛着を示していたものは１２・１３ヶ月時には父母に対して強い愛着を示すことは無くなっており，早期に父母に強い愛着を示すことは対人関係の発達を促進する要因となっていることが示唆される。全体的な傾向としては，父母に対して強い愛着を示す比率は１２・１３ヶ月時に最も高くなっており，愛着形成における発達的傾向が明確に認められる。しかし，父母間には明確な差異は認められず，本結果はFeldman & Ingham の結果を支持するものとなっている。

（２）愛着行動と親和行動

ここでは，父・母・見知らぬ人に対して表出される愛着行動と親和行動における違いについて検討する。分析対象とした実験場面は，分離後の呼び掛け場面から再会場面までを含む５分間である。これはAinsworthらが分離後の再会場面において愛着行動がより顕著に表出されるとすることによる。そのため，分析対象とするものは全ての実験場面を短縮および中止せずに行ったものとする。各月齢別に父・母・見知らぬ人に表出される愛着行動と親和行動における差異を検討するためにＴ検定を行う。

３・４ヶ月時において父・母・見知らぬ人に表出される愛着行動と親和行動には有意差は認められない。７・８ヶ月時においては愛着行動である「接触する」行動の表出は，父親よりも母親に対して多くなされる傾向がある。また，１２・１３ヶ月時においても「接触する」行動については７・８ヶ月と同様の傾向が認められるとともに，「接近する」愛着行動は見知らぬ人に対してよりも父親に対して多く表出される傾向がある。親和行動については「ほほえむ」は見知らぬ人よりも父親に多く表出され，さらに「注視する」は母親よりも父親に対して多く表出される傾向がある。

このように父・母・見知らぬ人に対して表出される愛着行動と親和行動の多くのものにおいて顕著な差異は見出だされない。差異が見出だされた行動のいずれも父親に対して多く表出されている。Lamb らは父母に対して表出される愛着行動には有意差は認められないが訪問者（見知らぬ人）との間には多くの愛着行動に有意差があるとの結果を明らかにしている。また，親和行動については母親よりも父親に多く表出されることを示している。

親和行動の表出対象に父親がなる傾向は，本結果と一致するものであるが，父母と見知らぬ人に対する愛着行動の表出の結果は明らかに異なっている。このような結果の差異は，分析手続きに依存している可能性が考えられる。つまり，本結果の分析においては実験場面の各エピソードを完全に終結した対象児が，父・母・見知らぬ人に対して表出した愛着行動と親和行動を対象としているのに対して，Lamb らは日常生活において父・母・訪問者に対して表出されたものを対象としているという違いである。本研究においては，１２・１３ヶ月時には対象の約半数のものが実験を中止しており，分析対象から除かれている。これらの対象児が見知らぬ人に対して愛着行動および親和行動を表出する可能性は，実験を中止しなかったものたちに比較して著しく低いことが考えられる。それゆえ，実験場面を中止せずに全対象に行った場合，見知らぬ人に対して表出する愛着行動と親和行動の頻度は母親や父親に比較してかなり減少することとなろう。ここで分析対象としたものに，父母と見知らぬ人に対して表出される愛着行動と親和行動に有意差が認められなかったのは，分析対象になった対象児がこの時期には家庭のような見知った場所では，例え見知らぬ人と２人で同室するというような状況にあっても，不安を覚えることがなくなっているためと考えられる。

本結果から示唆される事柄は，３・４ヶ月時と７・８ヶ月時に比較して１２・１３ヶ月時には多くの子どもが見知らぬ人に対して不安を覚え，その不安解消の手段として父母の存在が明確な役割をもっている。さらに，１２・１３ヶ月時には見知らぬ人に対してそれほど強い不安を示さない子どももあり，そのような子どもは愛着行動や親和行動の表出対象が特定個人に集中することがなく，複数の対象に対して同程度の表出が可能であり，対人関係に広がりが見られる。

（3）見知らぬ人に対する不安に関係する要因

先に，１２・１３ヶ月時に完全にエピソードを実施できたものは，結果的には見知らぬ人に対して強い不安を示さなかった子どもたちであり，一方，エピソードを中止もしくは短縮したものは見知らぬ人に対して強い不安を示した子どもたちである。そこで，ここでは対象児の見知らぬ人に対する不安の表出を手掛かりとして安定群と不安群の２群に分ける。このようなグループ化に寄与する要因として父母の養育態度や子どもの行動特性や気質などが考えられるため，父母の養育態度と実験場面における子どもへの関わり行動および子どもの性格評定などにおける両群の差異について検討する。結果の分析はＴ検定により両群の差異を各月齢別に検討する。

＜養育態度と関わり行動＞

両群における父母の養育態度には顕著な差異は認められない。実験場面における子どもへの関わり行動についてみると，３・４ヶ月時においては母親の方から子どもへの接近を図る行動は不安群に多い。また，７・８ヶ月時では父親自身が子どもとの相互交渉をたのしんでいると評価したものは安定群に多く，身体的活動量の多い激しい遊びを提

供するものは不安群の方に多く見られる。母親についてはこの月齢時においても不安群の母親の方が子どもとの身体的接触を図ることが多く，身体的活動量の多い激しい遊びの提供も多い。１２・１３ヶ月時においては子どもへの気配りと子どもとの相互交渉を楽しんでいる父親は安定群の方に多いが，母親には両群間に有意差がみられない。身体的な接触量と相互交渉のたのしさが両群のグループ化に寄与しているものと考えられる。

＜性格評定＞

父母によってなされた対象児の性格評定の結果についてみる。まず，３・４ヶ月時においては安定群の父親は不安定群の父親に比較して子どもの性格特性として「のん気そうだ」と「あたたかい感じ」がするととらえており，不安群の父親は「気むずかしい」「つめたい感じ」の子どもととらえている。母親の場合は安定群の方が「せわがやける」子どもととらえており，不安群のものは「手がかからない」子どもととらえているものが多い。７・８ヶ月時においては安定群の父親は不安定群の父親に比較して子どもについて「神経が太い」と評定し，不安群の父親は「神経質」な子どもと評定している。また，安定群の母親は不安群の母親に比較して子どもに対して「美しい」という感覚を持つとともに「男らしい」と評定している。一方，不安群の母親は「みにくい」という否定的な感情をもつとともに「女らしい」と評定している。両群の実際の対象児の性別は安定群は女児５名，男児２名であり，不安群は女児１名，男児５名である。このように母親が子どもの性格的なものとして受け止めている「らしさ」は，実際の子どもの性別によって影響されているわけではない。１２・１３ヶ月時における評定には父母のいずれにおいても両群間に有意差は見出だされない。

両群の子どもたちの性格における差異として明確にされた特性，例えば「気むずかしい－のん気」「神経が太い－神経質」「手がかかる－せわがやける」などは気質として指摘されているのもであり，両群の差異は子どもの気質的な違いに起因することが示唆される。しかしながら，それらの影響も１２・１３ヶ月時には見られないことから，本対象児の場合には気質的な特性がそれ程相互交渉の成立にネガティブな影響を与えるほどではないことが考えられる。

＜子どもの行動評定＞

実験場面における行動評定について両群の差異を見る。

まず，３・４ヶ月時について見ると，母親と見知らぬ人との場面において両群間に有意差が見られるが，父親との場面では有意差は見られない。母親との場面では安定群の子どもの方がより機嫌がよくぐずることが少なく，また母親との相互交渉を楽しんでいるものが多い。見知らぬ人との場面では，一人で残されたときの活動水準はむしろ不安群の方が多く，また見知らぬ人との相互交渉を楽しんでいるものが多い。

７・８ヶ月時についてみると父・母・見知らぬ人のいずれの場面においても両群間に有意差が見いだされる。父親について見ると，安定群の方が分離後の「むずかり」の状態がより強く，また「なだまり」に長い時間を必要としている。母親では逆に不安群の方が分

離後の「なだまり」に長い時間を必要としている。なだまりやすさについては両群間に有意差は見られない。見知らぬ人との身体接触は，安定群の方がより長くなっている。

１２・１３ヶ月時についても父・母・見知らぬ人のいずれの場面においても両群間に有意差が見いだされる。父親について見ると，「活動水準」「相互交渉の楽しさ」「父親へのはたらきかけ」一人場面での「活動水準」のいずれも安定群の子どものほうが有意に高く評定されている。また，分離後の場面では安定群の方がより強い「むずかり」の状況を示し，不安群は強い「身体接触」を行っている。母親について見ると，「身体的な接触」は不安群の子どもに多く，「機嫌」の状態は安定群の方がより良好である。一人場面では安定群の方が「活動水準」がより高く，母親に再会することによって「活動性」が増大するのは不安群である。また，分離後の場面においては「むずかり」の状況が強いのも「機嫌」がいいのも安定群の子どもである。見知らぬ人との場面について見ると，「活動水準」は安定群の方が高く，分離後においては「機嫌」がよいのも，見知らぬ人との「相互交渉のたのしさ」も安定群の方が高い。これは，不安群の子どもたちの情動的混乱が強いために実験場面を中止若しくは短縮したことから当然の結果といえる。

（4）まとめ

父母に対する愛着の形成について実験場面の継続の有無，愛着行動と親和行動の表出，見知らぬ人に対する不安の程度などの要因との関連について検討する。

母親，父親，見知らぬ人との実験場面の中止および継続状況から対象児の父母に対する愛着の形成について見ると母親と父親の間には顕著な差異は認められない。しかし，見知らぬ人と父母の間には明白な差異が認められ，見知らぬ人の場合に実験場面の中止が多く見られる。特に，１２・１３ヶ月時に実験場面の中止が多く見られる。母親や父親に抱っこすることで対象児の情動が平静を取り戻すことから明らかに父母が対象児の愛着の対象となっていることが確認される。また，月齢との関連を見ると３・４ヶ月時においても明らかに見知らぬ人に対する反応と父母に対する反応は異なっているものがおり，このように早期にも父母に対して愛着を形成しているものが見られる。しかし，その比率はそれほど高いものではない。また，３・４ヶ月時に父母に強い愛着を示したものは，７・８ヶ月時においても強い愛着を示すが，７・８ヶ月時に父母に強い愛着を示していたものは１２・１３ヶ月時には父母に対して強い愛着を示すことは無く，早期に父母に強い愛着を示すことは対人関係の発達を促進する要因となっていることが示唆される。全体的な傾向としては，父母に対して強い愛着を示す比率は１２・１３ヶ月時に最も高くなっており，愛着形成における発達的傾向が明確に認められる。しかし，父母間には明確な差異は認められず，本結果はFeldman & Ingham の結果を支持するものとなっている。

また，全ての実験場面を短縮および中止せずに行ったものを対象として，分離後の呼び掛け場面から再会場面までを含む５分間に父・母・見知らぬ人に対して表出される愛着行動と親和行動における違いについて検討したところあまり顕著な差異は見られない。これ

は３・４ケ月から１２・１３ケ月の子どもが父・母・見知らぬ人に対して類似の愛着行動や親和行動を示すことを意味するのではなく，見知らぬ人に対して不安を感じない子どもの場合には父・母・見知らぬ人に対して類似の愛着行動や親和行動を示すことを意味している。先にも述べたように７・８ケ月時に見知らぬ人に強い不安を示した子どもが１２・１３が月には強い不安を示さなくなっていることから，１２・１３ケ月時に見知らぬ人に強い不安を示さなかった子どもたちはこの以前に父母に対して強い愛着を形成していた可能性が考えられる。しかしながら，一般的な１２・１３ケ月時の子どもたちの父・母・見知らぬ人に対する愛着行動と親和行動の表出は父母と見知らぬ人に対しては明らかに差異があり，父母に対して多く表出されることが指摘できる。これは対象児の約半数のものが不安や泣きが強いために実験場面を中止したことから容易に推察されることである。実験場面を中止した対象児の場合，父親もしくは母親によって平静を得ており，また，全ての実験場面を終了した対象児の場合は父母に対して表出される愛着行動と親和行動には差異よりもむしろ類似傾向が多く見られる。このことから１２・１３ケ月時に父母に対して表出される愛着行動と親和行動には有意差が無いことが推察される。

１２・１３ケ月時に実験場面を中止したものを不安群とし終了したものを安定群とし，これらのグループ化に父母の養育態度や実験場面における子どもへの関わり行動および子どもの性格などの要因がどの様に関与しているかを検討する。両群における父母の養育態度には顕著な差異は認められない。しかし，実験場面における子どもへの関わりについてみると，不安群の母親と父親には３・４ケ月時や７・８ケ月時に身体的接触や身体的遊びが安定群よりも多く見られる。また，母親や父親が子どもとの相互交渉をたのしんでいるものは不安群よりも安定群に多く見られる。対象児の見知らぬ人への不安の表出の違いには母親と父親の子どもへの関わり方における差のあることが明らかとなる。また，性格についてみると，「気むずかしい－のん気」「神経が太い－神経質」「手がかかる－せわがやける」などは気質として指摘されている性格特性に両群の差異が見られることから安定群と不安群のグループ化には子どもの気質的な側面も関係していることが示唆される。

４．実験場面における心拍

３・４ケ月時，７・８ケ月時，１２・１３ケ月時に行った実験場面の行動観察時に母親・父親・子ども・見知らぬ人にそれぞれ心拍計を着装してもらう。心拍は全てＲ－Ｒ波で記録する。実験場面を開始する少し前からＶＴＲカメラを作動させ，実験の準備が出来た段階で心拍計のスイッチを入れる。ただし，ＶＴＲの映像と心拍計の計測開始とを照合させる必要上，心拍計のスイッチを入れる時に「スイッチ　オン」と発声するよう依頼する。対象児の心拍計のスイッチはカメラの撮影者が入れる。対象児の心拍計は計測可能時間の関係上，実験のペアーが変わる度に新しい心拍計に交換する。

実験終了後，ＶＴＲの映像に１００分の１秒単位のタイムを挿入し，各実験場面の継続

時間を算出する。その結果に基づいて各実験場面の心拍を算出する。

母親，父親，見知らぬ人に対する子どもの心拍の差異について検討する。

（1）母親と父親に対する心拍

各対象児について母親と父親に対する平均R－R値の差異を見るためにT検定を行い，母親と父親のどちらの方に高い心拍を示すかをみる。その後対象児全体について母親と父親に対して高い心拍を示す比率を算出し，カイ二乗検定により母親と父親に対して喚起される情動の差異をみる。

3・4ヶ月時においては抱っこされた時の心拍については母親と父親の間に有意差は認められない。しかし，他の全ての実験場面では母親の方に高い平均R－R値を示し，父親よりも母親に対して子どもの情動が喚起されることが明らかとなる。

7・8ヶ月時においては，再会時における心拍には有意差が見られないが，3・4ヶ月時に有意差が見られなかった抱っこされたときの心拍には有意差が見られる。7・8ヶ月時においても母親の方に高い平均R－R値を示し，父親よりも母親に対して子どもの情動が喚起されることが明らかとなる。

12・13ヶ月時においては，再会場面では父親に対して有意に高い心拍を示し，また一人場面では心拍に有意差はない。他の分離前の遊び場面，呼びかけ場面，抱っこの場面では母親の心拍が有意に高くなっている。

心拍に注目し，発達的な変化を見た場合には3・4ヶ月時では明らかに母親に対して高い心拍を示しているが，月齢が増すに従って父親に対して高い心拍を示すようになる傾向が認められる。

（2）母親，父親，見知らぬ人に対する心拍

統計的処理は前項と同様である。

3・4ヶ月時についてみると，分離前の遊び場面では母親と見知らぬ人に対する心拍には有意差がないが，2人に比較して父親に対する心拍は明らかに低い。一人場面と呼び掛け場面では見知らぬ人との心拍が母親と父親に比較して明らかに高い。しかし，再会場面の心拍は母親の方が有意に高くなっている。抱っこについては3者に有意差は見られない。なお，3者に対して最も低い心拍を示すものについてみると，抱っこ以外の場面において父親に対する心拍が最も低くなっている。

7・8ヶ月時についてみると，母親に対して有意に高い心拍を示した場面は，呼び掛け場面と抱っこの場面である。再会場面では3者に有意差はない。分離前の遊び場面では父親と母親に対して見知らぬ人より高い心拍を示し，一人場面では父親よりも母親と見知らぬ人に対して高い心拍を示している。また，最も低い心拍を示したものについてみると，分離前の遊び場面では見知らぬ人に対してであり，一人場面，呼び掛け場面，抱っこの場面では父親に対してとなっている。

１２・１３ヶ月時では，母親に対して最も高い心拍が認められた場面は分離前の遊び場面と抱っこの場面である。呼び掛け場面では母親と見知らぬ人に対して，また，再会場面では母親と父親に対して共に高い心拍を示している。一人場面では３者に有意差は認められない。また，最も低い心拍を示したものについてみると，父親と見知らぬ人に対して共に低い心拍を示したのは呼び掛け場面と抱っこの場面である。他のいずれの場面においても見知らぬ人となっている。

（３）まとめ

母親と父親に対する子どもの心拍について見ると，月齢が低い段階では母親に対して高い情動的興奮を示す傾向が顕著に認められるが，月齢が増すに従い父親に対しても高い情動的興奮を示す傾向が認められる。このような発達的な変化と先にみた愛着との関連は更にミクロ的な観点からの分析を重ねる必要がある。

母親，父親，見知らぬ人に対する子どもの心拍について見ると，３・４ヶ月時には母親に対してよりも見知らぬ人に対して高い情動的興奮を示す傾向が認められる。これは，先に３・４ヶ月と言う早期に父親や母親に対して明らかに愛着を形成している対象児のいることが確認されたが，この結果は父親・母親と見知らぬ人を弁別する能力に起因するものであるか否かについては，やはり詳細に検討される必要がある。このように発達初期には見知らぬ人に対して高い心拍を示す傾向が，月齢の上昇によりその傾向は減少し，１２・１３ヶ月時頃にはむしろ父親や母親に対してよりも低い心拍を示すような傾向が顕著になってくる。当初，愛着関係が強固になる１２・１３ヶ月時には見知らぬ人に対して不安をいだくようになり，その結果として高い情動的興奮を示すものと考えていたが，結果はむしろ全く異なったものとなっている。この場合，１つの理由としては約半数の対象児が実験場面を途中で中止しているため，心拍についたは全対象児について入手できていないため，先に愛着の所で検討したようにデータ的な偏りを指摘することができる。

5．資　料

表　Ⅳ－1　目覚めて機嫌がよいとき　(%)

	側にいて相手	時々相手	一人にしておく
3・4ケ月	53.8	46.2	0.0
7・8ケ月	15.4	84.6	0.0
12・13ケ月	30.8	53.8	15.4

表　Ⅳ－2　機嫌がよくないとき　(%)

	側にいて相手	時々相手	一人にしておく
3・4ケ月	23.0	76.9	0.0
7・8ケ月	100.0	0.0	0.0
12・13ケ月	92.3	7.7	0.0

表　Ⅳ－3　泣いたり、ぐずっているとき　(%)

	側にいて相手	時々相手	一人にしておく
3・4ケ月	23.1	76.9	0.0
7・8ケ月	61.5	23.1	15.4
12・13ケ月	46.2	53.8	0.0

表　Ⅳ－4　家庭への来訪の有無　(%)

	週に1回以上	来訪なし
3・4ケ月	69.2	30.8
7・8ケ月	92.3	7.7
12・13ケ月	100.0	0.0

表　Ⅳ－5　買い物に連れていく回数　(%)

	週に1回以上	な　し
3・4ケ月	58.3	41.7
7・8ケ月	91.7	8.3
12・13ケ月	100.0	0.0

表　Ⅳ－6　父親を他の人と区別　(%)

	区別している	区別していない	なんともいえない
3・4ケ月	61.5	7.7	30.8
7・8ケ月	84.6	15.4	0.0
12・13ケ月	92.3	0.0	7.7

表　Ⅳ－7　母親の評定による父親の育児参加

		上段平均　下段SD	
	3・4ケ月	7・8ケ月	12・13ケ月
家事参加	2.5	2.00	2.00
	0.452	0.853	0.739
食事の世話	2.25	2.00	1.92
	0.754	0.853	0.793
おむつの交換	1.83	1.92	2.08
	0.718	0.793	0.669
風呂にいれる	1.75	1.67	1.66
	0.866	0.888	0.888
遊ぶ	1.25	1.25	1.25
	0.452	0.452	0.452
子どもと2人で留守番をする	2.00	2.08	2.17
	0.853	0.793	0.718

表　Ⅳ－8　母親の子どもに対する感情

		上段平均　下段SD		
		3・4ケ月	7・8ケ月	12・13ケ月
可愛い	にくらしい	1.10	1.20	1.10
		0.316	0.422	0.316
丈夫だ	こわれそう	1.60	1.50	1.70
		0.699	0.707	0.823
抱きしめたい	気味が悪い	1.10	1.40	1.40
		0.316	0.699	0.516
いきいきしている	お人形のよう	1.10	1.30	1.20
		0.316	0.675	0.422
しずかである	やかましい	2.80	3.20	3.30
		1.033	0.789	0.823
手がかからない	せわがやける	2.20	2.70	2.40
		0.919	1.160	1.174
美しい	みにくい	1.90	2.20	2.00
		0.738	0.789	0.817

表　Ⅳ－9　　母親の子どもの性格の評定

		上段平均　下段SD		
		3・4ケ月	7・8ケ月	12・13ケ月
活動的だ	おっとりしている	2.40	2.10	1.90
		1.265	1.197	0.878
神経が太い	神経質である	2.70	2.70	2.80
		0.949	0.823	1.033
気が強い	気がやさしい	2.90	2.60	2.40
		0.878	0.699	0.966
気むずかしい	のん気そう	3.20	3.00	2.60
		1.033	0.817	0.516
ねばり強い	あっさりしている	2.90	3.00	2.50
		0.568	0.667	0.707
きかなそうだ	すなおそうだ	2.40	2.00	2.00
		0.843	0.667	0.817
明るい感じ	暗い感じ	1.70	1.80	2.10
		0.823	0.632	0.738
あたたかい感じ	つめたい感じ	1.90	2.00	2.20
		0.878	0.817	0.789
男らしい	女らしい	2.90	2.70	2.50
		1.287	1.160	0.850

表　Ⅳ－10　　母親による子どもの性格評定の月齢間相関

		3・4ケ月×7・8ケ月	3・4ケ月×12・13ケ月	7・8ケ月×12・13ケ月
活動的だ	おっとりしている	0.704*	0.241	0.647*
神経が太い	神経質である	0.441	0.159	0.314
気が強い	気がやさしい	−0.254	−0.079	0.757*
気むずかしい	のん気そう	0.527	0.583	0.127
ねばり強い	あっさりしている	0.294	0.138	0.471
きかなそうだ	すなおそうだ	0.791**	0.323	0.204
明るい感じ	暗い感じ	0.726*	0.787**	0.762*
あたたかい感じ	つめたい感じ	0.933***	0.837**	0.863**
男らしい	女らしい	0.871**	0.762*	0.733*

* $p<0.05$　** $p<0.01$　*** $p<0.001$

表　Ⅳ－１１　　子どもの機嫌と月齢間相関

	７・８ケ月	１２・１３ケ月	７・８ケ月×１２・１３ケ月
ぐずったり・泣く			
眠いとき	１．８３	１．７５	０．０９１
	０．５７７	０．８６６	
相手をして欲しい	１．８３	２．２５	０．２５２
	０．７１８	０．７５４	
原因もなく	３．１７	３．２５	０．１０２
	０．７１８	０．６２２	
子ども自身でなだまる	２．５８	２．３３	０．４７９
	０．９００	０．９８５	
なだめるのに時間がかかる	３．００	３．２５	０．２４３
	０．６０３	０．６２２	
機嫌のよい子	１．７５	１．６７	０．３７１
	０．９６５	０．７７９	
扱いよい	１．９２	１．９２	０．８４７***
	０．９００	０．９００	

上段平均　下段ＳＤ　*** ｐ＜０．００１

表　Ⅳ－１２　　母親の育児過程における感情

		上段平均	下段ＳＤ
	３・４ケ月	７・８ケ月	１２・１３ケ月
育児の自信がなくなる	２．９	２．８	２．９
	０．３１６	０．６３２	０．７３８
充実感がある	１．４	１．６	１．７
	０．６９９	０．８４３	０．８２３
自分の関心や時間が子どもにとられ	２．８	２．７	２．６
視野が狭くなる	０．７８９	０．６７５	０．６９９
子どもこそ生き甲斐	２．１	２．４	２．３
	０．７３８	１．０７４	０．９４９
子どもがいなければよいと思う	３．９	４．０	２．９
	０．３１６	０．０	０．５６８
自分のやりたいことができなくて	３．０	２．８	２．２
あせる	０．０	０．４２２	０．７８９
子どもをもって自分も成長できた	２．１	２．０	２．３
	０．９９４	０．８１７	０．９４９
育児ノイローゼになる心境に共感	２．７	２．９	２．７
	０．４８３	０．３１６	１．０５９
何となくイライラする	２．７	２．９	１．９
	０．４８３	０．５６８	０．８７６
子どもは自分の体の一部のようだ	２．４	２．２	２．２
	０．９６６	０．７８９	１．１３５
子どもさえいれば幸せだ	２．４	２．３	２．２
	１．０７５	０．９４７	１．１３５

表　Ⅳ－１３　母親の育児過程における感情の月齢間相関

	３・４ケ月×７・８ケ月	３・４ケ月×１２・１３ケ月	７・８ケ月×１２・１３ケ月
育児の自信がなくなる	－０．１１１	－０．５２４	０．４２９
充実感がある	０．８６７**	０．８１１**	０．７６８**
自分の関心や時間が子どもにとられ視野が狭くなる	０．０８３	０．０４０	０．４２４
子どもこそ生き甲斐	０．７８４**	０．４２９	０．７４１*
子どもがいなければよいと思う	－	０．３６４	－
自分のやりたいことができなくてあせる	－	－	０．０００
子どもをもって自分も成長できた	０．５４７	０．５３８	０．８６３**
育児ノイローゼになる心境に共感	－０．２１８	－０．３２７	－０．１２７
自分の中で最も重要なのは子どもだ	０．７２１*	０．５２２	０．８８１***
何となくイライラする	０．６８９*	－０．２１８	０．２４８
子どもは自分の体の一部のようだ	０．７５８*	０．５７８	０．６７６*
子どもさえいれば幸せだ	０．９５８***	０．７４７*	０．８６７**

＊ ｐ＜０．０５　＊＊ ｐ＜０．０１　＊＊＊ ｐ＜０．００１

表　Ⅳ－１４　父親の育児参加

上段平均　下段ＳＤ

	３・４ケ月	７・８ケ月	１２・１３ケ月
食事の世話	２．３１	２．００	１．９２
	０．７５１	０．８１７	０．８６２
おむつの交換	２．００	２．１５	２．３１
	０．７０７	０．８０１	０．７５１
風呂に入れる	１．７７	１．７７	１．６９
	０．９２７	０．９２７	０．８５５
散歩	２．１５	２．１５	１．８５
	０．８０１	０．６８９	０．８０１
遊ぶ	１．３８	１．６９	１．５４
	０．５０６	０．６３０	０．６６０
子どもと２人で留守番	２．４６	２．６２	２．５４
	０．７７６	０．６５０	０．６６０

表　Ⅳ－１５　　父親の評定による父親の育児参加の月齢間相関

	３・４ケ月×７・８ケ月	３・４ケ月×１２・１３ケ月	７・８ケ月×１２・１３ケ月
食事の世話	０．２７２	０．０４０	０．８２９**
おむつの交換	０．５８９*	０．４７１	０．８８５***
風呂にいれる	０．６１２*	０．６３９*	０．６３９*
散歩	０．２５６	０．３００	０．８０２***
遊ぶ	０．１４１	０．３２６	０．８３２***
子どもと２人で留守番をする	０．７１１**	０．６１３*	０．９１１***

＊ ｐ＜０．０５　＊＊ ｐ＜０．０１　＊＊＊ ｐ＜０．００１

表　Ⅳ－１６　　父親の育児参加に対する父親と母親の評定の相関

	３・４ケ月	７・８ケ月	１２・１３ケ月
食事の世話	０．６８０*	０．８７５***	０．７５４**
おむつの交換	０．９１６***	０．７０６**	０．７０６**
風呂にいれる	０．９４６***	０．８５０***	０．８５０***
遊　ぶ	０．２９３	０．３３９	０．２２２
子どもと２人で留守番をする	０．７１１**	０．５７１*	０．７１９**

＊ ｐ＜０．０５　＊＊ ｐ＜０．０１　＊＊＊ ｐ＜０．００１

表　Ⅳ－１７　　父親の子どもに対する感情

上段平均　下段ＳＤ

		３・４ケ月	７・８ケ月	１２・１３ケ月
可愛い	にくらしい	１．１５	１．１５	１．５４
		０．３７６	０．３７５	１．１２７
丈夫だ	こわれそう	１．７７	１．６２	１．３８
		０．９２７	０．７６８	０．６５０
抱きしめたい	気味が悪い	１．５４	１．３１	１．４６
		０．６６０	０．４８０	０．６６０
いきいきしている	お人形のよう	１．２３	１．０８	１．０８
		０．４３９	０．２７７	０．２７８
静かである	やかましい	２．７７	３．６９	３．２３
		０．８３２	１．１０９	１．１６６
手がかからない	せわがやける	２．７７	３．６２	３．０８
		１．０１３	１．２６１	１．３２０
美しい	みにくい	１．９２	２．０８	２．１５
		０．７６０	０．７６０	０．８００

表　Ⅳ－１８　父親の子どもに対する感情の月齢間相関

		３・４ケ月×７・８ケ月	３・４ケ月×１２・１３ケ月	７・８ケ月×１２・１３ケ月
可愛い	にくらしい	１．０００***	０．１８２	０．１８２
丈夫だ	こわれそう	０．４５０	０．２９８	０．３２１
抱きしめたい	気味が悪い	０．４８５	０．５２９	０．５６６*
いきいきしている	お人形のよう	０．５２７	０．５２７	－０．０８３
しずかである	やかましい	０．０９７	０．０５９	０．８３３***
手がかからない	せわがやける	０．３１６	０．１３９	０．７２０**
美しい	みにくい	０．４４４	０．５６９	０．８０１***

＊ｐ＜０．０５　＊＊ｐ＜０．０１　＊＊＊ｐ＜０．００１

表　Ⅳ－１９　父親の子どもの性格の評定

上段平均　下段ＳＤ

		３・４ケ月	７・８ケ月	１２・１３ケ月
活動的だ	おっとりしている	２．００	１．９２	１．８５
		０．９１３	１．０３８	１．１４４
神経が太い	神経質である	２．６９	２．５４	２．６２
		０．７５１	１．１９８	１．１２１
気が強い	気がやさしい	２．７７	２．００	２．２３
		０．８３２	０．９１３	１．３０１
気むずかしい	のん気そう	２．８５	２．５４	２．７７
		０．８９９	０．８７７	０．７２５
ねばり強い	あっさりしている	２．５４	３．００	２．６９
		０．７７６	０．４０９	１．０３２
きかなそうだ	すなおそうだ	２．４６	１．８５	１．８５
		０．７７６	０．６８９	０．５５５
明るい感じ	暗い感じ	１．７７	１．８５	１．６２
		０．８３２	０．６８９	０．６５０
あたたかい感じ	つめたい感じ	１．８５	２．２３	１．９２
		０．８０１	０．８３２	０．８６２
男らしい	女らしい	２．９２	２．５４	２．３８
		１．１８８	０．８７７	０．７６８

表　Ⅳ－２０　　父親の子どもに対する性格の月齢間相関

		３・４ケ月×７・８ケ月	３・４ケ月×１２・１３ケ月	７・８ケ月×１２・１３ケ月
活動的だ	おっとりしている	０．７９２**	０．７９８**	０．９０２***
神経が太い	神経質である	０．６６２*	０．４４２	０．８４９***
気が強い	気がやさしい	－０．４３９	－０．１７８	０．４９１
気むずかしい	のん気そう	０．４３１	０．３２５	０．４７４
ねばり強い	あっさりしている	－０．５２６	０．２２４	－０．１９８
きかなそうだ	すなおそうだ	０．０１２	０．３７２	０．８０５***
明るい感じ	暗い感じ	０．５１５	０．２２４	－０．１９８
あたたかい感じ	つめたい感じ	０．３０８	０．４６４	０．３７５
男らしい	女らしい	０．７６３**	０．４０１	０．２８６

＊ ｐ＜０．０５　＊＊ ｐ＜０．０１　＊＊＊ ｐ＜０．００１

V　応答性

Ainsworthらが，愛着の形成に重要であるとする養育者の感受性は子どもの発する信号やサインに対して敏感かつ適切に時を得て反応するところの行動特性を指し，感受性の高い養育者とは，子どもからの信号やコミュニケーションを素早く受信できると共に，それを正確に解釈し，敏速かつ適切に反応できるものを意味する。一方，感受性の低い養育者とは，自分自身の思いや気分で子どもに関わると共に子どもからのコミュニケーションに対しても自分流に解釈して反応する傾向を有しているものをいう。このような特性は応答性の重要な構成要因の１つと考えられる。Schaffer は発達は刺激作用に依存し，子どもに与えられる刺激の量と種類とタイミングは，子ども自身の心理的体制と密着に関係している必要があり，子どもに関わる人々が子どもの状態を旨く読取ることの重要性を指摘している。Schaffer の指摘する読取りの旨さも養育者の応答的行動を介して子どもに返される必要があるわけで，その意味では読取りの旨さも応答性の１つの構成要因と考えられる。さらに，応答性に問われるのは，子どもの状態の読取りの旨さだけではなく，養育者から子どもに返される応答の速度も重要な意味を持っている。子どもは自分の行動によって自分以外の対象にある効果を生じさせることができたという体験を通して，自分の行為と外の世界との結び付きを知るようになる。このような感覚の発達には子どもは一貫した敏速な強化を得ることが必要なことをMillar は明らかにしている。

そこで，養育者の応答性に注目し，応答性の高いものと低いものでは養育者の行動評定，子どもに対する感じ，子どもの性格評定，子どもの行動評定，子どもの愛着行動と親和行動の表出，母親の育児体験，父親の育児参加などにおいてどのような差異が有るかを明らかにする。

１．高応答性群と低応答性群

母親と父親の応答性の評定は，実験場面における子どもからの働きかけに対して応答する頻度に注目し，応答性の違いにより５点から１点を配する。子どもからの働きかけに対していつも必ず応答する場合は５点を配し，かなりよく応じる場合は４点を配し，応じることと応じないことが半々の時は３点を配し，応じないことが多いときは２点を配し，ほとんど応じることがない時は１点を配する。応答性を評定するときは肯定的な応答だけでなく，肯定・否定が定かでない中性的な応答，さらに否定的な応答もすべて応答と見なし，応答の内容は問題とせず，ここでは子どもからの働きかけに対する応答の程度を問題とする。ただし，子どもの働きかける意図を問題とするのではなく子どもの行動や発声を母親や父親が自分への働きかけと受け止めるか否かを問題とする。

応答性の高い群と低い群のグループ分けには，３・４ケ月時，７・８ケ月時，１２・１

3ヶ月時における母親および父親のそれぞれの応答性の平均評価点により，高応答性群と低応答性群の2群に分ける。

（1）応答性の各月齢間の相関

まず，母親と父親のそれぞれの応答性について各月齢間の相関を見ると母親の場合は，3・4ヶ月時と7・8ヶ月時の間には完全相関が認められるが，他の月齢間には有意な相関は見られない。また父親の場合には3・4ヶ月時と7・8ヶ月時（r＝0．714　p＜0．05），3・4ヶ月時と12・13ヶ月時（r＝0．795　p＜0．05）の間に有意な相関が見られる。このように母親においても父親においても応答性は一貫した行動特性というよりも変容しうるものであることを示している。

（2）母親と父親の応答性と子どもの行動評定

母親と父親の応答性の違いと実験場面における子どもの行動評定の結果の間に有意差が見られたものについて表Ⅴ－1，2である。

3・4ヶ月時の母親の応答性と3・4ヶ月時の子どもの行動評定の結果を見ると，相互交渉のたのしさ，母親への働きかけなど対人関係をポジティブに展開するために有効と考えられる行動は母親が高い応答性を示す子どもたちに多く見られる。一方，むずかると言うようなネガティブな行動は母親が低い応答性を示す子どもたちに多く見られる。しかしながら，7・8ヶ月時および12・13ヶ月時にはこの関係はむしろ逆になっており，3・4ヶ月時に母親が低い応答性を示す子どもたちに対人関係をポジティブに展開するための行動が多く見られる。

7・8ヶ月時の母親の応答性と3・4ヶ月時の子どもの行動との関係を見ると，3・4ヶ月時に母親の応答性における差異として見られた結果と同様な関係が認められる。7・8ヶ月時の子どもの行動との関係を見ると，いずれも母親が高い応答性を示す子どもの方の行動が母親との関係において活性化する傾向が認められる。また，12・13ヶ月時には高い応答性を示す母親の子どもに母親への発声や発話など言語的関わりが多く見られ，母親からの応答を期待してなされる働きかけは低い応答性を示す子どもたちに多く見られる。

12・13ヶ月時においては，母親の応答性の違いによる差は3・4ヶ月時および7・8ヶ月時には見られず，同時点の12・13ヶ月時の子どもの行動との関連が認められるだけである。母親が高い応答性を示す子どもたちに母親との分離による影響が強く出る傾向が認められる。

これらの結果から当初，母親の応答性の違いと子どもの行動評定の関係について母親の応答性が子どもの行動の先行要因として働くと仮定していたが，むしろ母親の応答性と子どもの行動傾向は同時的関連が強いことが示唆される。また，その関連も発達初期において顕著に認められる傾向がある。

父親の応答性の違いと子どもの行動との関連を見ると，３・４ヶ月時の父親の応答性の違いにおける各月齢時の子どもの行動には母親よりも多くの行動に有意差が認められる。また，各月齢時の子どもの行動においては母親の場合のように矛盾するようなことはなく各月齢時の子どもの行動には一貫性のある傾向が認められる。また，７・８ヶ月時および１２・１３ヶ月時の父親の応答性の違いによっても他の月齢時の子どもの行動に一貫性のある違いが見られる。父親の応答性と母親の応答性が子どもの行動に与える影響についてはさらに検討される必要がある。

（３）母親と父親の応答性と子どもの性格

母親と父親の応答性の違いによる子どもの性格の違いに有意差が認められたものについて見たのが表Ｖ－３，４である。子どもの性格は対になっている語について５段階評定を母親および父親が行なったものである。左の方に近いほど評定点は低くなり，右に近いほど評定点は高くなる。表中の不等号の向きは両群の評定点の関係を示している。

母親の応答性の違いと子どもの性格を見ると３・４ヶ月時に応答性の低い母親は高い母親よりも子どもの性格を気が優しくのん気そうと評定しており，逆に応答性の高い母親は低い母親よりも子どもの性格を気が強くて気むずかしいと評定しており，応答性の高い母親の方が手のかかる子と評定している傾向がうかがえる。しかし，各月齢における母親の応答性の違いと子どもの性格の間には一貫した関係は見られない。

父親の応答性の違いについてみる，母親の応答性の違いよりも子どもの性格評定における差異が見出だされない。

（４）母親と父親の応答性と子どもに対する感じ

母親と父親の応答性の違いによる子どもの感じの違いに有意差が認められたものについて見たのが表Ｖ－５，６である。子どもの感じを現す対になっている語について５段階評定を母親および父親が行なったものである。左の方に近いほど評定点は低くなり，右に近いほど評定点は高くなる。表中の不等号の向きは両群の評定点の関係を示している。

母親の応答性の違いについて母親の子どもに対する感じ方について見る。３・４ヶ月時と７・８ヶ月時における母親の応答性による違いを見ると，高い応答性を示すものはいずれの月齢においても子どもに対して低い応答性を示す母親よりもネガティブな感じを抱いている。しかし，１２・１３ヶ月時における母親の応答性との関係を見ると，逆に低い応答性を示す母親の方が高い応答性を示す母親よりも子どもに対してネガティブな感じを抱いている。このような関係が何故生じるかについては明らかでない。

父親の応答性についてみると，高い応答性を示す父親はいずれの月齢においても子どもに対して低い応答性を示す父親よりもポジティブな感じを子どもに対して抱いており，母親に見られたような逆転関係は生じていない。

（5）母親の応答性と育児経験の評価

母親の応答性の違いにより母親が自分の育児体験の評価における違いに有意差の認められたものを表示したのが表Ｖ－７である。

３・４ケ月時の母親の応答性における違いによって３・４ケ月時の自分の育児体験の評価が異なるということはない。しかし，７・８ケ月時には母親自身の生き方と育児について葛藤を経験するものが応答性の低い母親よりも高い応答性を示す母親に見られる。１２・１３ケ月時には子どもは自分の一部のようだと受け止めるものが応答性の低い母親よりも高い応答性を示す母親に見られるようになり，３・４ケ月時に高い応答性を示した母親は育児の過程で葛藤を経験しながらも子どもに対して肯定的な感情を取り戻して行く事が見られる。また，７・８ケ月時に高い応答性を示した母親は，３・４ケ月時には応答性の低い母親よりも育児で神経が苛立つ体験を持っているものが多い。しかし，７・８ケ月時には育児に充実感を覚えるなど育児を肯定的に受け止めているものは応答性の低い母親よりも高い応答性を示す母親に見られるようになる。そして，１２・１３ケ月時にはまた育児に対して葛藤を覚えるものが応答性の低い母親よりも高い応答性を示す母親に見られる。１２・１３ケ月時の応答性の違いによる育児体験の評価には明確な差異はほとんど見られないが，応答性の高い母親の方が低い母親よりも育児によって神経的な苛立ちを体験しているものが多い。初期の母親の応答性の違いにより育児体験の受けとめ方に多くの差異がみられる。

（6）母親と父親の応答性と子どもの愛着行動と親和行動

母親と父親の応答性の違いによって子どもが母親と父親に示す愛着行動と親和行動の差異について見たところ応答性の低い母親の子どもの方が母親に対して「手をのばす」「抱かれたがる」「接近」という愛着行動を多く表出すると共に「発話」「注視」という親和行動の表出も多く見られる。また，父親については母親のように月齢を通して同じような傾向は認められない。３・４ケ月時の父親の応答性の高い子どもは「手をのばす」「接触」という愛着行動や「発話」「笑う」という親和行動の表出も多い。７・８ケ月時の父親の応答性の違いについてみると「注視」「手をのばす」などは高い応答性を示す父親の子どもに多く見られ，「接近」「泣く」は低い応答性を示す父親の子どもに多く見られる。

（7）母親と父親の応答性と行動評定

母親と父親の応答性による有意差が見られた実験場面での母親と父親の行動評定項目は，いずれも同時点における行動評定と応答性についてであり，経時的な差異は見られない。母親の場合，３・４ケ月時および７・８ケ月時のそれぞれに高い応答性を示したものは同じ時期の実験場面の行動評定において応答性の低い母親よりも子どもへの気配りや子どもとの相互交渉を母親自身が楽しんでいると評定されている。しかし，１２・１３ケ月時には逆に応答性の低い母親の方が子どもとの相互交渉を母親自身が楽しんでいると

評定されている。このような評価における逆転が７・８ヶ月時と１２・１３ヶ月時の間に生じるのかは明らかでない。父親の場合には母親に見られた様な逆転は見られない。高い応答性を示す父親はいずれの月齢の行動評定においても子どもへの気配り，子どもとの相互交渉を楽しんでいると評定されている。また，応答性の低い父親は子どもへの働き掛け，子どもへの接近，身体的遊びをよくすると評定されている。

（8）父親の応答性と育児参加

父親の応答性の違いにより父親の育児参加の状況がどのように違うかを見た結果，有意差が見られた育児行為を表示したのが，表Ｖ－８である。

応答性の高い父親は低いものよりも多くの種類の育児行為に参加している。特に，３・４ヶ月時の応答性の違いが育児参加に大きな違いを生じている。応答性はもともと関係概念的なものであり，対人関係の中でとらえられる特性を有している。その意味から考えると応答性の高い父親が多くの育児行為に参加すると言うよりも，多くの育児行為に参加することが子どもへの応答性を高めたものと推察される。

（9）母親と父親の応答性と他の要因

応答性に関係する要因として母親および父親がそれぞれ持っている対人関係的個人史や育児経験，さらに夫婦関係や育児に対してそれぞれの家庭が有するところの支援システムなどを仮定していたが，生後１年間における母親および父親の応答性の高低度の違いによる有意な差異は見られない。これらの要因との関連は，生後１年間という短期的な過程においてよりももっと長期的な育児の過程において顕在化する可能性が考えられる。これらについては，更に継続研究において検討する。

(10) まとめ

母親と父親が子どもからの働き掛けに対してどの程度敏感に応答を子どもに返すかということに注目して母親と父親をそれぞれ応答性の高いものと低いものの群にわけて両群の差異について検討する。

母親と父親のそれぞれの応答性は時間を越えて比較的安定したものであるかどうかを見るために各月齢間の相関について見たところの父親の場合３・４ヶ月時の応答性と他のいずれの月齢時の応答性との間に有意な相関が認められたが，母親の場合は父親のように長期にわたる有意な相関は認められない。このことは必ずしも応答性は一貫した行動特性というよりも変容しうるものであることを示しているものと考えられる。

母親や父親の応答性の違いと子どもの行動評定の関係について親の応答性が子どもの行動の先行要因として働くと仮定していたが，母親の場合には母親の応答性と子どもの行動傾向は同時的関連が強いことが示唆される。また，その関連も発達初期において顕著に認められる傾向がある。しかし，父親の場合は父親の応答性の違いと子どもの行動には比較

的一貫した関係が認められるなど，父親の応答性と母親の応答性が子どもの行動に与える影響についは違いが見られる。このような違いは子どもの性格の評定や子どもへの感じなどにおいても見られるものである。母親と父親の間のこのような差異については更に検討される必要がある。

母親の育児経験をどの様に評価しているかを見ると，初期の母親の応答性の違いにより育児体験の受けとめ方に多くの差異が見られる。また，父親の育児参加について見ると，応答性の高い父親は低いものよりも多くの種類の育児行為に参加しており，特に，3・4ヶ月時の応答性の違いが育児参加に大きな違いを生じている。応答性はもともと関係概念的なものであり，対人関係の中でとらえられる特性を有している。その意味から考えると応答性の高い父親が多くの育児行為に参加すると言うよりも，多くの育児行為に参加することが子どもへの応答性を高めたものと推察される。

このように母親と父親の子どもに対する応答性の違いは，母親と父親の行動評定，子どもの行動評定，子どもに対する感じ，子どもの性格評定，子どもの行動評定，子どもの愛着行動と親和行動の表出との関係において母親と父親ではかなり異なっていることが明らかとなる。親子という関係でとらえた場合この様な母親と父親の違いは個々の子どもに対してどの様な影響を与えることになるのであろうか，その様な点からの分析がさらになされる必要がある。

2．資　料

表　V－1　　母親の応答性と子どもの行動評定

3・4ヶ月時の母親の応答性と各月齢時の子どもの行動評定	
3・4ヶ月時の子どもの行動評定	
相互交渉のたのしさ	高応答性群＞低応答性群**
母親への働きかけ	高応答性群＞低応答性群*
分離後のむずかり	高応答性群＜低応答性群**
分離後の相互交渉のたのしさ	高応答性群＞低応答性群†
分離後の母親への働きかけ	高応答性群＞低応答性群†
7・8ヶ月時の子どもの行動評定	
相互交渉のたのしさ	高応答性群＜低応答性群*
12・13ヶ月時の子どもの行動評定	
相互交渉のたのしさ	高応答性群＜低応答性群*
母親への働きかけ	高応答性群＜低応答性群†
分離後のなだまりやすさ	高応答性群＜低応答性群**
分離後の相互交渉のたのしさ	高応答性群＜低応答性群†
7・8ヶ月時母親の応答性と各月齢時の子どもの行動評定	
3・4ヶ月時の子どもの行動評定	
むずかり	高応答性群＜低応答性群*
相互交渉のたのしさ	高応答性群＞低応答性群†
母親への働きかけ	高応答性群＞低応答性群†
一人場面の泣き	高応答性群＞低応答性群***
母親をさがす	高応答性群＜低応答性群†
なだまりのよさ	高応答性群＜低応答性群*
7・8ヶ月時の子どもの行動評定	
一人場面の泣き	高応答性群＞低応答性群†
身体接触	高応答性群＞低応答性群**
分離後の身体接触	高応答性群＞低応答性群***
分離後の活動水準	高応答性群＞低応答性群***
分離後の母親への働きかけ	高応答性群＞低応答性群†
12・13ヶ月時の子どもの行動評定	
発話	高応答性群＞低応答性群**
母親への働きかけ	高応答性群＜低応答性群*
分離後の発話	高応答性群＞低応答性群**
分離後の母親への働きかけ	高応答性群＜低応答性群*
12・13ヶ月時の母親の応答性と各月齢時の子どもの行動評定	
12・13ヶ月時の子どもの行動評定	
一人場面での活動水準	高応爆性群＞低応答性群*
分離後のむずかり	高応答性群＞低応答性群†
分後のなだまりやすさ	高応答性群＜低応答性群**

†　p＜0．1　＊ p＜0．05　** 0＜0．01　*** p＜0．001

表　Ｖ－２　　父親の応答性と子どもの行動評定

３・４ヶ月時の父親の応答性と各月齢時の子どもの行動評定	
３・４ヶ月時の子どもの行動評定	
発話	高応答性群＜低応答性群*
活動水準	高応答性群＞低応答性群*
相互交渉のたのしさ	高応答性群＞低応答性群†
父親への働きかけ	高応答性群＞低応答性群*
一人場面での活動性の増大	高応答性群＜低応答性群*
分離後のむずかり	高応答性群＜低応答性群*
７・８ヶ月時の子どもの行動評定	
相互交渉のたのしさ	高応答性群＞低応答性群†
父親をさがす	高応答性群＞低応答性群*
むずかり	高応答性群＜低応答性群*
一人場面での活動水準	高応答性群＜低応答性群*
１２・１３ヶ月時の子どもの行動評定	
発話	高応答性群＜低応答性群*
呼び掛け時の活動性の増大	高応答性群＞低応答性群*
父親をさがす	高応答性群＞低応答性群*
まだまりのよさ	高応答性群＞低応答性群†
７・８ヶ月時の父親の応答性と各月齢時の子どもの行動評定	
３・４ヶ月時の子どもの行動評定	
きげんのよさ	高応答性群＞低応答性群*
呼び掛け時の活動性の増大	高応答性群＜低応答性群*
呼び掛け時の活動水準	高応答性群＞低応答性群*
７・８ヶ月時の子どもの行動評定	
発話	高応答性群＜低応答性群*
呼び掛け時の活動水準	高応答性群＜低応答性群†
１２・１３ヶ月時の父親の応答性と各月齢時の子どもの行動評定	
３・４ヶ月時の子どもの行動評定	
活動水準	高応答性群＞低応答性群*
相互交渉のたのしさ	高応答性群＞低応答性群†
父親への働きかけ	高応答性群＞低応答性群*
一人場面で父親をさがす	高応答性群＞低応答性群*
分離後のむずかり	高応答性群＜低応答性群*
７・８ヶ月後の子どもの行動評定	
機嫌のよさ	高応答性群＞低応答性群*
活動水準	高応答性群＞低応答性群**
相互交渉のたのしさ	高応答性群＞低応答性群*
父親への働きかけ	高応答性群＞低応答性群*
一人場面での活動の増大	高応答性群＜低応答性群**
一人場面での活動水準	高応答性群＜低応答性群*
１２・１３ヶ月時の子どもの行動評定	
父親をさがす	高応答性群＞低応答性群***
一人場面での活動水準	高応答性群＜低応答性群†
父親への働きかけ	高応答性群＞低応答性群*

†　p＜０．１　＊ p＜０．０５　** ０＜０．０１　*** p＜０．００１

表　Ｖ－３　　母親の応答性と子どもの性格

３・４ケ月時の母親の応答性と各月齢時における子どもの性格評定	
３・４ケ月時の性格	
気が強い－気がやさしい	高応答性群＜低応答性群**
気むずかしい－のん気そう	高応答性群＜低応答性群*
７・８ケ月時の性格	
ねばり強い－あっさりしている	高応答性群＜低応答性群*
温かい感じ－冷たい感じ	高応答性群＞低応答性群 +
１２・１３ケ月時の性格	
温かい感じ－冷たい感じ	高応答性群＞低応答性群*
７・８ケ月時の母親の応答性と各月齢時における子どもの性格評定	
３・４ケ月時の性格	
温かい感じ－冷たい感じ	高応答性群＞低応答性群*
７・８ケ月時の性格	
活動的だ－おっとりしている	高応答性群＜低応答性群*
温かい感じ－冷たい感じ	高応答性群＞低応答性群*
１２・１３ケ月時の性格	
気むずかしい－のん気そうだ	高応答性群＞低応答性群*
きかなそう－すなおそう	高応答性群＞低応答性群**
温かい感じ－冷たい感じ	高応答性群＞低応答性群*
ねばり強い－あっさりしている	高応答性群＞低応答性群 +
１２・１３ケ月時の母親の応答性と各月齢時における子どもの性格評定	
３・４ケ月時の性格	
男らしい－女らしい	高応答性群＞低応答性群*
７・８ケ月時の性格	
静かである－やかましい	高応答性群＞低応答性群 +
温かい感じ－冷たい感じ	高応答性群＞低応答性群*

+　ｐ＜０．１　＊ｐ＜０．０５　** ０＜０．０１

表　Ｖ－４　　父親の応答性と子どもの性格

３・４ケ月時の父親の応答性と各月齢時における子どもの性格評定	
３・４ケ月時の性格	
男らしい－女らしい	高応答性群＜低応答性群*
７・８ケ月時の性格	
活動的だ－おっとりしている	高応答性群＞低応答性群*
神経が太い－神経質である	高応答性群＞低応答性群**
温かい感じ－冷たい感じ	高応答性群＜低応答性群†
男らしい－女らしい	高応答性群＜低応答性群†
１２・１３ケ月時の性格	
活動的だ－おっとりしている	高応答性群＞低応答性群†
神経が太い－神経質である	高応答性群＞低応答性群†
ねばり強い－あっさりしている	高応答性群＞低応答性群†
７・８ケ月時の父親の応答性と各月齢時における子どもの性格評定	
７・８ケ月時の性格	
気むずかしい－のん気そうだ	高応答性群＞低応答性群†
男らしい－女らしい	高応答性群＞低応答性群*
１２・１３ケ月時の父親の応答性と各月齢時における子どもの性格評定	
７・８ケ月時の性格	
気むずかしい－のん気そうだ	高応答性群＞低応答性群*
男らしい－女らしい	高応答性群＞低応答性群*

† $p<0.1$　* $p<0.05$　** $p<0.01$

表　Ｖ－５　　母親の応答性と母親の子どもに対する感じ

３・４ケ月時の母親の応答性と各月齢時における母親の子どもに対する感じ	
３・４ケ月時の感じ	
手がかからない－世話がやける	高応答性群＞低応答性群*
美しい－醜い	高応答性群＜低応答性群*
７・８ケ月時の子どもの行動評定	
手がかからない－世話がやける	高応答性群＞低応答性群*
１２・１３ケ月時の子どもの行動評定	
手がかからない－世話がやける	高応答性群＞低応答性群*
抱きしめたい－きみが悪い	高応答性群＞低応答性群*
７・８ケ月時の母親の応答性と母親の感じ	
３・４ケ月時の子どもの行動評定	
かわいい－にくらしい	高応答性群＞低応答性群*
丈夫だ－こわれそう	高応答性群＞低応答性群*
７・８ケ月時の感じ	
静かである－やかましい	高応答性群＞低応答性群*
美しい－醜い	高応答性群＞低応答性群†
１２・１３ケ月時の感じ	
かわいい－にくらしい	高応答性群＞低応答性群†
１２・１３ケ月時の母親の応答性と母親の感じ	
３・４ケ月の感じ	
美しい－醜い	高応答性群＜低応答性群*
７・８ケ月の感じ	
抱きしめたい－きみが悪い	高応答性群＜低応答性群*
丈夫だ－こわれそう	高応答性群＞低応答性群†
１２・１３ケ月時の感じ	
抱きしめたい－きみが悪い	高応答性群＜低応答性群†
美しい－醜い	高応答性群＜低応答性群†
静かである－やかましい	高応答性群＜低応答性群†

† ｐ＜０．１　＊ｐ＜０．０５　＊＊０＜０．０１　＊＊＊ｐ＜０．００１

表　Ｖ－６　　父親の応答性と父親の子どもに対する感じ

３・４ケ月時の父親の応答性と各月齢時における父親の子どもに対する感じ	
３・４ケ月時の感じ	
手がかからない－世話がやける	高応答性群＞低応答性群*
美しい－醜い	高応答性群＜低応答性群†
７・８ケ月時の感じ	
抱きしめたい－きみが悪い	高応答性群＜低応答性群**
静かである－やかましい	高応答性群＜低応答性群*
美しい－醜い	高応答性群＜低応答性群**
１２・１３ケ月時の感じ	
美しい－醜い	高応答性群＜低応答性群***
７・８ケ月時の父親の応答性と各月齢時における父親の子どもに対する感じ	
３・４ケ月時の感じ	
生き生きしている	高応答性群＜低応答性群†
７・８ケ月時の感じ	
手がかからない－世話がやける	高応答性群＜低応答性群†
１２・１３ケ月時の感じ	
生き生きしている	高応答性群＜低応答性群†
手がかからない－世話がやける	高応答性群＜低応答性群*
１２・１３ケ月時の父親の応答性と各月齢時における父親の子どもに対する感じ	
３・４ケ月の感じ	
丈夫だ－こわれそう	高応答性群＞低応答性群†
１２・１３ケ月時の感じ	
手がかからない－世話がやける	高応答性群＜低応答性群*

†　ｐ＜０．１　＊ ｐ＜０．０５　＊＊ ｐ＜０．０１　＊＊＊ ｐ＜０．００１

表　Ｖ－７　　母親の応答性と育児体験

３・４ケ月時の母親の応答性と各月齢時における育児体験	
７・８ケ月時の育児体験	
自分のことができなくてあせる	高応答性群＞低応答性群†
育児ノイローゼがよくわかる	高応答性群＞低応答性群†
１２・１３ケ月時の育児体験	
子どもは自分の一部のよう	高応答性群＞低応答性群*
７・８ケ月時の母親の応答性と各月齢時における育児体験	
３・４ケ月時の育児体験	
何となくイライラする	高応答性群＞低応答性群*
７・８ケ月時の育児体験	
充実感	高応答性群＞低応答性群*
子どもが生きがい	高応答性群＞低応答性群†
自分に重要なのは子ども	高応答性群＞低応答性群*
子どもは自分の一部のよう	高応答性群＞低応答性群†
子どもさえいれば幸せ	高応答性群＞低応答性群*
１２・１３ケ月時の育児体験	
子どもが生きがい	高応答性群＞低応答性群*
何となくイライラする	高応答性群＞低応答性群*
子どもさえいれば幸せ	高応答性寝＞低応答性群†
１２・１３ケ月時の母親の応答性と各月齢時における育児体験	
３・４ケ月時の育児体験	
何となくイライラする	高応答性群＞低応答性群*
７・８ケ月時の育児体験	
何となくイライラする	高応答性群＞低応答性群*
１２・１３ケ月時の育児体験	
育児ノイローゼがわかる	高応答性群＞低応答性群†

† $p<0.1$　* $p<0.05$

表　Ｖ－８　　父親の応答性と育児参加

３・４ケ月時の父親の応答性と各月齢時における育児参加	
３・４ケ月時の育児参加	
食事を与える	高応答性群＜低応答性群*
おむつをとりかえる	高応答性群＞低応答性群*
風呂に入れる	高応答性群＞低応答性群†
７・８ケ月時の育児参加	
食事を与える	高応答性群＞低応答性群†
散歩	高応答性群＞低応答性群*
遊ぶ	高応答性群＜低応答性群*
２人で留守番	高応答性群＜低応答性群*
１２・１３ケ月時の育児参加	
食事を与える	高応答性群＜低応答性群*
２人で留守番	高応答性群＞低応答性群*
父親をさがす	高応答性群＞低応答性群*
まだまりのよさ	高応答性群＞低応答性群†
７・８ケ月時の父親の応答性と各月齢時における育児参加	
３・４ケ月時の育児参加	
風呂に入れる	高応答性群＞低応答性群*
７・８ケ月時の育児参加	
風呂に入れる	高応答性群＜低応答性群*
１２・１３ケ月時の父親の応答性と各月齢時における育児参加	
３・４ケ月時の育児参加	
食事を与える	高応答性群＞低応答性群*
風呂に入れる	高応答性群＞低応答性群†
２人で留守番	高応答性群＞低応答性群*
７・８ケ月時の育児参加	
散歩	高応答性群＞低応答性群*
２人で留守番	高応答性群＞低応答性群**
１２・１３ケ月時の育児参加	
２人で留守番	高応答性群＞低応答性群***

†　ｐ＜０．１　＊ｐ＜０．０５　＊＊０＜０．０１　＊＊＊ｐ＜０．００１

お　わ　り　に

データ収集はすべて研究期間内に完了したのであるが、子どもたちの誕生日によってデータ収集日が規定されてしまう関係があり、誕生日が広い期間に亘って分布しているため全ての対象者の全てのデータの収集完了までにかなり多くの時間を費やさざるを得なかったこと、さらに、データの分析に手間取ったこともあって、この報告書で扱わなかったデータがかなりある。今後できるだけ早急にそれらについても分析検討を加えたいと考えている。

特に、母親と子ども、父親と子どもという２者関係ではなく子どもと母親と父親の３者が関わる課題場面でののデータについてはここでは全く検討してない。子・父・母の３者が関わって展開している親子関係は３者の中から２者を取り出した２者関係としてとらえられる関係と３者関係としてとらえた中の２者関係では当然異なったものとなる。また、２者関係と３者関係ではそのコミュニケーション構造は全く異なってくる。３者関係の中で母親・父親の応答性について十分な検討を加えたいと思っている。

また、応答性の分析はマクロ的な評定によってのみ行ったが、子どものサインを読取りそれを解釈し、敏速に反応として子どもにフィードバックする過程を分析するためにはミクロ的分析を是非とも行う必要がある。また、得られた各種のデータと十分なクロス分析を行うことにより、多くの新しい知見を得ることも期待できる。このような分析を早急に行う予定でいる。

長期にわたる協力によって得られた貴重なデータであり、まだまだ残された作業は多くある。せっかくのデータをこのまま眠らすこと無く、養育者の応答性の促進を図るための方向性を見いだすために、十分に活かしたいと考えている。

文　　献

Ainsworth, M. D., Blehar, M. C., Waters, E., & Wall, S. (1978). Patterns of attachment. Hillsdale, New Jersey:Lawrence Erlbaum Associates.

Belsky, J., Hertzog, C., & Rovine, M. (1986) Causal analyses of multiple determinants of parenting:Empirical and methodological advances. In M. E. Lamb, A. L. Brown, & B. Rogoff (Eds.) Advances in developmental psychology, Vol. 4. Lawrence Erlbaum Associates, 153−202.

Bornstein, M. H., Miyake, K. , Azuma, H., Tamis-Le Monda & Toda, S. (1990) Responsiveness in Japanese Mothers:Cosepuences and Characterristics. Research and Clinical Center for Child Development, 12, 15−26.

Brazelton, T. B., Koslowski & Main, M. The origins of reciprocity:the early mother-infant interaction. In M. Lewis & L. A. Rosenblum (Eds.), The Effect of the Infant on its Caregiver.

Brockington, I. F., & Kumar, R. (1982) Motherhood and Mental Illness. (保崎秀夫　監訳　『母性と精神疾患』　学芸社　1988)

Cohen, L. J., & Campos, J. J. (1974) Father, mother, and stranger as elicitors of attachment behaviors in infancy. Developomental Psychology, 10, 146−154.

Condon, W. (1975) Speech markes babies move. Im R, Lewin(Ed.), Child Alive. London:Temple Smith.

Escalona, S. K. (1969) The Roots of Individuality, London:Tavistock Publications.

Feldman, S., & Ingham, M. (1975) Attachment behavior:A validation study in two age groups. Child Development, 46, 319−330.

Feldman, S., & Nash, S. C. (1978) Interest in babies during young adulthood. Child Development, 49, 617−622.

Frodi, A., Lamb, M. E., Leavitt, L. A., & Donovan, W. L. (1978) Father's and mother's response to infant smiles and cries. Infant Behavior & Development, 1, 187−198.

Frodi, A., & Lamb, M. E. (1978) Sex differences in responsiveness to infants : A develoment study of psychophysiological and behavioral responses. Child Development, 49, 1182−1188.

Frommer, E. A., & O' Shea, G. (1973) Antenatal identification of women liable to have problems in managing their infans. British Journal of Psychiatry, 123, 149−156.

藤永　保・斎賀久敬・春日　喬・内田伸子（1987）人間発達と初期環境　有斐閣。

池田由子（1979）児童虐待の病理と臨床　金剛出版。

Greenberg, M., & Morris, N. (1974) Engrossment:The newborn's impact upon the father. American Journal of Orthopsychiatry, 44, 520−531.

川崎佳代子・河西玲子・佐山光子（1983）妊婦の精神衛生ー妊婦の受けとめ方とそれを左右する要因について　母性衛生，23 (4), 11−20。

小林　登　(1989) エントレインメント（音声・行動同調現象）と乳幼児の発達　別冊発達 9, 54−59。

Kotelchuck, M. (1976) The infan's relationship to the father:Experimental evidence. In M. E. Lamb (Ed.), The role of the father in child development. New York:Wiley.

Lamb, M. E. (1980), The development of parent-infant attachments in the first two years of life. In Pedersen, F. A. (Ed.) The Father-Infant Relationship. New York:A Division of CBS.

Leifer, M. (1977) Psychological changes accompanying pregnancy and motherhood. Genetic Psychology Monograghs, 95, 55−96.

Lewis, M. (1972) State as an infant-environment interaction of sex. Merrill-Palmer Quarterly, 18, 95−122.

Lewis, M., & Weinraub, M. (1976) The father's role in the infant's social network. In M. E. Lamb (Ed.), The role of the father in child development, New York:Wiley.

Millar, W. S. (1972) A study of operant conditioning under delayed reinforcement in early infancy. Monographs of the Society for Research in early infancy. Monographs of the Society for Research in Child Development, 37.

三宅和夫（1984）乳児の気質・母子相互作用と愛着の形成の関連ー日米比較研究　昭和58年度科学研究費補助金　総合研究（A）研究成果報告書。

Moss, H. A. (1967) Sex, age and state as determinants of mother-infant interaction. Merrill-Palmer Quarterly, 13, 19−36.

Osofsky, J. D., & Osofsky, H. J. (1984) Psychological and developmental perspectives on expectant and new parenthoof. In R. Parke (Ed.) Review of child development research. Vol. 7. The University of Chicago Press, 372−397.

Parke, R. D., & O'Leary, S. (1976) Father-mother-infant intraction in the newborn period:Some findings, some observations, and some unresolved issues. In M. K. Riegel & J. Meacham (Eds.) The developing individual in a changing world. The Hague : Mouton.

Pedersen, F. A. (Ed.)(1980) The Father-Infant Relationship. New York:A Division of CBS.

Ricks, M. H. (1985) The social transmisson of parental behavior:Attachment across generations. In I. Bretherton, & E. Waters (Ed.) Growing points of attachment theory and research. Mongraphs of the Society for Research in Child Develoment, 209, 211－277.

佐藤紀子（1984） 被虐待児症侯群の家族関係 日本家族心理学（編）心の健康と家族（家族心理学年報２） 金子書房，51－77。

Schaffer, R. (1977) Mothering. Cambridge:Harvard University Press.

Schaffer, H. R., and Emerson, P. E. (1964) Patters of response to physical contact in early human development, Journal of Child Psycholongy and Psychiatry, 5, 1－13.

高橋恵子（1976） 母親のわが子に対する愛着の発達 日本心理学会第40回大会発表論文集，767－768。

妊娠初期（1～4カ月）用　　資料No.1

記　入　日：　昭和　　年　　月　　日
記入者氏名：
　　住所：上越市
年　　齢：　　歳
結婚年月日：　昭和　　年　　月　　日
結婚年齢　：　　歳
職　　業：

同居家族構成：　夫　　妻　　その他（　　）
あなたの兄弟姉妹の人数と
あなたの位置　　：兄（　　）姉（　　）弟（　　）妹（　　）

－－－人中－－－番目
出産予定日：　昭和　　年　　月　　日
出産予定の病院名：

（　妊娠について　）
1．妊娠に気づかれたのは妊娠何カ月の時ですか　（　　）カ月
2．妊娠とわかったとき　まず何をされましたか
　（　　）
3．妊娠とわかって　何かとまどわれたことがありましたか　（　はい　　いいえ　）
　それはどんなことですか
　（　　）
4．妊娠がわかってから生活面で特に意識的にかえられたことがありますか
　（　はい　　いいえ　）
　それはどんなことですか
　（　酒，煙草，コーヒー，はげしい運動，夜ふかし，薬，家事，自動車の運転，
　　その他　　）
　何時頃からですか
　（　　）
5．いまの時期　特に気をつけていることがありますか　（　はい　　いいえ　）
　それはどんなことですか
　（　　）
6．奥様への心遣いとしてどんなことに特に気をつけていますか（ご主人のみ）
　（　　）

7．ご主人からの言葉掛けや行為などで『うれしかった』と思われることがありますか

（　はい　　いいえ　）

それはどんなことですか

（　　）

（　お腹の赤ちゃんについて　）

1．お腹の赤ちゃんのために自分のやりたいことを何か我慢していることがありますか

（　はい　　いいえ　）

それはどんなことですか

（　　）

我慢していることはつらいですか　（　はい　　いいえ　）

2．赤ちゃんを迎える準備として　何かなさいましたか　（　はい　　いいえ　）

1番最初にされたことは　どんなことですか

（　　）

3．初めて妊娠用品を買いに行かれたとき，誰と行かれましたか

（　まだ何も買いに行ってない　　一人で　　ご主人と　　母親と　　その他　）

そのとき　どんな気持ちでしたか

（ご主人もご一緒に行かれた場合は　ご主人もお答えください）

（　　）

4．現在　妊婦服を着ていらっしゃいますか　（　はい　　いいえ　）

初めて妊婦服を着られたとき　どんな気持ちがしましたか

（ご主人の場合は　奥様が初めて妊婦服を着られたのを見られたときのお気持ちをお教えください）

（　　）

5．『赤ちゃんがお腹にいるんだわ！』と感じられることがありますか

（　はい　　いいえ　）

それはどんなときですか

（　　）

6．お腹の赤ちゃんと意志が通じるという体験をされたことがありますか

（　はい　　いいえ　）

それはどんなときですか

（　　）

7．自分が元気がないときは　お腹の赤ちゃんもなんだか元気がないように思うことがありますか

（　はい　　いいえ　）

8．お腹に赤ちゃんがいることを　人に自慢（話す）したくなることが　ありますか

（ご主人の場合は　奥様が妊娠していらっしゃることを自慢したくなることがありますか）

（　はい　　いいえ　）

9．お腹の赤ちゃんは『男の子』と『女の子』のどっちだと思いますか

現在は　（　男の子　　女の子　）

それはどうしてですか

（　　）

以前は（　男の子　　女の子　）

それはどうしてですか

（　　）

10．お二人でお腹の赤ちゃんのことについて話されますか　（　はい　　いいえ　）

それは主にどんなことですか

（　　）

11．「生みの苦しみ」といわれますが　今までどんなことが最も苦しいことでしたか

（ご主人の場合は　奥様の様子を拝見されていて）

（　　）

12．出産まで何か不安に思うことがありますか　（　はい　　いいえ　）

それはどんなことですか

（　　）

（　妊娠前のことについて　）

1．お腹の目立つ妊婦さんを　かつて目にされたとき　どのように思いましたか

（　何とも思わなかった　　うらやましいと思った　　かっこう悪いと思った

その他　　）

2．身近に妊娠あるいは出産された方がいらっしゃいますか　（　はい　　いいえ　）

3．妊娠の経過について　その程度の知識を持っていると思ってますか

（　かなりよく知っている　　あまり知らない　　ほとんど知らない　）

4．いままでに　赤ちゃんをだっこされたり，ミルクをあげたり，おむつをかえたりなどの世話をしてあげたことがありますか　（　はい　　いいえ　）

それはいつごろのことですか

（　　）

5．結婚前に　お二人で自分達の子どものことについて　話し合われたことがありますか

（　はい　　いいえ　）

どんなことを主に話されましたか

（　　）

6．妊娠の時期を計画的に予定されましたか　（　はい　　いいえ　）

（　出産後のことについて　）

1．赤ちゃんが生れたあとのことを考えると　どんな気持ちがしますか

（　何となくうれしくなる　　何となく不安になる　）

特にどんなことについて

（　　）

2．赤ちゃんが生れたあとのことについて　お二人で話し合われますか

（　はい　　いいえ　）

それはどんなことですか

（　　）

3．全部で子どもは何人位欲しいと思いますか

（　　人位）

それはどうしてですか

（　　）

（　ご自身について　）

1．気軽に人前で　歌をうたうとか　絵やアニメ等をかくことができますか

（　はい　　いいえ　）

2．自分の母親（父親）のような母（父）になりたいと思いますか

（　はい　　いいえ　）

一言でいえば　どんなお父さん（お母さん）ですか

（　　）

3．あなたは小さいときから子どもが好きでしたか　　（　はい　　いいえ　）

4．自分が生れたときの様子を　詳しく聞いたことがありますか

（　はい　　いいえ　）

いつ聞かれましたか

（　　）

何がきっかけで聞かれましたか

（　　）

どんなことを覚えていますか

（　　）

5．親になる自信はどれくらいありますか

（　かなりある　　なんとかやっていけると思う　　あまりない　）

それはどんなことから考えられますか

（　　）

＊＊＊　出産後の連絡先　＊＊＊

ＴＥＬ：

連絡先のお宅のお名前：

現住所にお帰りになられるご予定：　　月の（　初旬　　中旬　　下旬　）

妊娠中期（5～7カ月）用　　資料No.2

記　入　日：　昭和　　年　　月　　日
記入者氏名：
　　住所：上越市
　電話番号：
年　　齢：　F　　歳　　M　　歳
職　　業：　変更の有無　（　有　　無　）
　　F　　M

居家族構成：　変更の有無　（　有　　無　）
　　夫　　妻　　その他（　　）

出産予定日：　昭和　　年　　月　　日

1．妊娠の経過はいかがでしたか，何か病気などなさいましたか
　（　　）
2．妊娠初期よりもこの頃，生活面で特に意識的に気をつけていることがありますか
　（　はい　いいえ　）
　それはどんなことですか
　（　酒，煙草，コーヒー，はげしい運動，夜ふかし，薬，家事，自動車の運転，
　その他　　）
　何時頃からですか
　（　　）
3．奥様への心遣いとしてどんなことに特に気をつけていますか（ご主人のみ）
　（　　）
4．ご主人からの言葉掛けや行為などで『うれしい』と思われることがありますか
　（　はい　　いいえ　）
　それはどんなことですか
　（　　）

（　お腹の赤ちゃんについて　）
1．お腹の赤ちゃんのために自分のやりたいことを何か我慢していることがありますか
　（　はい　　いいえ　）
　それはどんなことですか
　（　　）
　我慢していることはつらいですか　　（　はい　　いいえ　）

2．赤ちゃんを迎える準備として　何かなさいましたか　　（　はい　　いいえ　）

それはどんなことですか

（1）　いつ

（2）　いつ

（3）　いつ

（4）　いつ

（5）　いつ

（6）　いつ

3．初めて妊娠用品を買いに行かれたとき，誰と行かれましたか

（　まだ何も買いに行ってない　　一人で　　ご主人と　　母親と　　その他　　）

そのとき　どんな気持ちでしたか

（ご主人もご一緒に行かれた場合は　ご主人もお答えください）

（　　）

4．現在　妊婦服を着ていらっしゃいますか　　（　はい　　いいえ　）

初めて妊婦服を着られたとき　どんな気持ちがしましたか

（ご主人の場合は　奥様が初めて妊婦服を着られたのを見られたときのお気持ちをお教えください）

（　　）

5．お腹の赤ちゃんについてあるいは妊娠の経過について　いままでどんなことが最も印象的でしたか

（　　）

6．『赤ちゃんがお腹にいるんだわ！』と　感じられることがありますか

（　はい　　いいえ　）

それはどんなときですか

（　　）

7．お腹の赤ちゃんと意志が　通じるという体験をされたことがありますか

（　はい　　いいえ　）

それはどんなときですか

（　　）

8．自分が元気がないときは　お腹の赤ちゃんもなんだか元気がないように　思うことがありますか

（　はい　　いいえ　）

9．お腹に赤ちゃんがいることを　人に自慢（話す）したくなることが　ありますか

（ご主人の場合は　奥様が妊娠していらっしゃることを自慢したくなることがありますか）

（　はい　　いいえ　）

10．お腹の赤ちゃんは『男の子』と『女の子』のどっちだと思いますか

現在は　　（　男の子　　女の子　）

それはどうしてですか

（　　）

以前は　（ 男の子　女の子 ）
それはどうしてですか
（　　）

１１．最近　お二人でお腹の赤ちゃんのことについてどんなことを話されますか
（ はい　いいえ ）
それは主にどんなことですか
（　　）

１２．「生みの苦しみ」といわれますが　今までどんなことが最も苦しいことでしたか
（ご主人の場合は　奥様の様子を拝見されていて）
（　　）

１３．出産まで何か不安に思うことがありますか　（ はい　いいえ ）
それはどんなことですか
（　　）

（ 出産後のことについて ）

1．赤ちゃんが生れたあとのことを考えると　どんな気持ちがしますか
（ 何となくうれしくなる　何となく不安になる ）
特にどんなことについて
（　　）

2．赤ちゃんが生れたあとのことについて　お二人で話し合われますか
（ はい　いいえ ）
それはどんなことですか
（　　）

3．全部で子どもは何人位欲しいと思いますか
（　　人位）
それはどうしてですか
（　　）

4．親になる自信はどれくらいありますか
（ かなりある　なんとかやっていけると思う　あまりない ）
それはどんなことから考えられますか
（　　）

5．どんな親になりそうだと思いますか
（　　）

＊＊＊ 出産後の連絡先 ＊＊＊

ＴＥＬ：
連絡先のお宅のお名前：
現住所にお帰りになられるご予定：　月の（ 初旬　中旬　下旬 ）

妊娠後期（８～１０カ月）用　　資料No.3

記　入　日：　昭和　　年　　月　　日
記入者氏名：

対象者氏名：
対象者ＮＯ：
　　住所：上越市
　電話番号：
出産予定日：　昭和　　年　　月　　日
年　　齢：　　歳
結婚年月日：　昭和　　年　　月　　日
結婚年齢　：　Ｆ　　歳　　Ｍ　　歳
職　　業：　Ｆ　　Ｍ

同居家族構成：
結婚前の兄弟姉妹の数：　Ｆ　　兄（　　）姉（　　）弟（　　）妹（　　）

－－－人中－－－番目

Ｍ　　兄（　　）姉（　　）弟（　　）妹（　　）

－－－人中－－－番目

出産予定の病院名：

（　妊娠について　）
１．妊娠に気づかれたのは妊娠何カ月の時ですか　（　　）カ月
２．妊娠とわかったとき　まず何をしましたか
　　（　　）
３．妊娠とわかって　何かとまどわれたことがありましたか　　（　はい　　いいえ　）
　　それはどんなことですか
　　（　　）
４．妊娠がわかってから生活面で特に意識的にかえられたことがありますか
　（ｅｘ．酒，煙草，はげしい運動，夜ふかし，薬，家事，...）
　　Ｆ（　はい　　いいえ　）　　Ｍ（　はい　　いいえ　）
　　それはどんなことですか
　　（　　）
　　何時頃からですか
　　（　　）

5．いまの時期　特に気をつけていることはどんなことですか

（　　）

6．奥様への心遣いとしてどんなことに特に気をつけていますか

（　　）

7．ご主人からの言葉掛けや行為などで『うれしかった』と思われることがありますか

（　はい　　いいえ　）

それはどんなことですか

（　　）

（　お腹の赤ちゃんについて　）

1．お腹の赤ちゃんのために自分のやりたいことを何か我慢していることがありますか

（　はい　　いいえ　）

それはどんなことですか

（　　）

我慢していることはつらいですか　　（　はい　　いいえ　）

2．赤ちゃんを迎える準備として１番最初にされたことは　どんなことですか

F　　M

3．初めて妊娠用品を買いに行かれたとき，どんな気持ちがしましたか

F　　M

4．初めて妊婦服を着られたとき　どんな気持ちがしましたか

F（Mが着ているのを見たとき）　　M

5．どんなとき『赤ちゃんがお腹にいるんだわ！』と感じますか

F　　M

6．お腹の赤ちゃんと意志が通じ合っているという体験をされたことがありますか

（　はい　　いいえ　）

それはどんなときですか

（　　）

7．自分が元気がないときは　お腹の赤ちゃんもなんだか元気がないように　思うことがありますか　　（　はい　　いいえ　）

8．どんなときお腹の赤ちゃんを誇らしく思われますか

F（Mが妊娠していることを）　　M

9．お腹の赤ちゃんは『男の子』と『女の子』のどっちだと思いますか

現在　　F.　　M

それはどうしてですか

（　　）

以前　F　　M

それはどうしてですか

（　　）

１０．お二人でお腹の赤ちゃんのことについて話されますか　（はい　いいえ）

それは主にどんなことですか

（　　）

１１．「生みの苦しみ」といわれますが　今までどんなことが最も苦労に思いましたか

F（Mを見ていて）　M

またこれから先どんなことが不安に思いますか（特に出産に関して問う）

F　M

（妊娠前のことについて）

1．まだ妊娠していなかったときにお腹の目立つ妊婦さんを見てどう思いましたか

F　M

2．妊娠されるまえに　身近に妊娠あるいは出産された方がいらっしゃいましたか

F　M

3．妊娠の経過について　どの程度の知識を持っていると思っていましたか

F　M

4．妊娠されるまえに　赤ちゃんをだっこされたり，ミルクをあげたり，おむつをかえたりなどの世話をしてあげたことがありましたか

F（はい　いいえ）　M（はい　いいえ）

それはいつごろのことですか

（　　）

5．結婚前に　お二人で自分達の子どものことについて　話し合われたことがありましたか

（はい　いいえ）

どんなことを主に話されましたか

（　　）

6．妊娠の時期を計画的に予定されましたか　（はい　いいえ）

（出産後のことについて）

1．赤ちゃんが生れたあとのことを考えると　どんな気持ちがしますか

F（なんとなくうれしくなる　なんとなく不安になる）

特にどんなことについて

（　　）

M（なんとなくうれしくなる　なんとなく不安になる）　）

特にどんなことについて

（　　）

2．赤ちゃんが生れたあとのことについて　お二人で話し合われますか

（　はい　　いいえ　）

それはどんなことですか

（　　）

3．全部で子どもは何人位欲しいと思いますか

F（　　人位）　　M（　　人位）

それはどうしてですか

（　　）

（　父母について　）

1．気軽に人前で　歌をうたうとか　絵をかくことに抵抗感がありませんか

F（はい　　いいえ　）　　M（　はい　　いいえ　）

2．自分の母親（父親）のような母（父）になりたいと思いますか

F（　はい　　いいえ　）　　M（　はい　　いいえ　）

F　一言でいえば　どんなお父さんですか

（　　）

M　一言でいえば　どんなお母さんですか

（　　）

3．あなたは小さいときから子どもが好きでしたか

F（　はい　　いいえ　）　　M（　はい　　いいえ　）

4．自分が生れたときの様子を　詳しく聞いたことがありますか

F（　はい　　いいえ　）

いつ聞かれましたか

（　　）

何がきっかけで聞かれましたか

（　　）

どんなことを覚えていますか

（　　）

M（　はい　　いいえ　）

いつ聞かれましたか

（　　）

何がきっかけで聞かれましたか

（　　）

どんなことを覚えていますか

（　　）

5．親になる自信のほどはいかがですか

F　　M

＊＊＊　出産後の連絡先　＊＊＊

出産後の調査１回目　　資料No. 4

記入者氏名：

記入年月日：　　昭和　　年　　月　　日

お子さんの誕生日：　昭和　　年　　月　　日

お子さんの年齢　：　　カ月と　　日

親の職業　　：　父親（　　）　母親（　　）

（　分娩状況について　）

1．分娩の状態　（1．正常分娩　2．異常あり（　　））

2．分娩に要した時間　（　　時間　　分　）

3．お子さんの健康状態　（1．良好　2．やや不健康（　　））

4．呼吸法など事前に練習していたことの効果はありましたか

（1．十分あった　2．かなりあった　3．あまり役立たなかった

4．ほとんど役立たなかった　5．その他　　）

5．分娩時　医師や助産婦の指示に従う余裕はありましたか

（1．十分従う余裕があった　2．指示内容はよく理解できたが従う余裕は

なかった　3．無我夢中だった　4．無痛分娩

5．その他　　）

6．無痛分娩を希望しましたか

（1．希望した　2．希望しなかった　）

7．分娩は　想像以上に大変でしたか

（1．はい　2．それほどではなかった　3．考えてたより楽だった　）

8．分娩中何か不安に思うことがありましたか

（1．はい　2．いいえ　）

それはどんなことですか

（　　）

（　育児について　）

1．育児は主にどなたがやっていらっしゃいますか　（　　）

2．育児を手伝ってくださるのはどなたですか

（1．夫　2．その他（　　））

3．家族の皆さんは　育児のどの部分をどの程度手伝ってくださいますか

（1．夫（　　）

2．その他（　　））

4．現在のお子さんの健康状態はいかがですか

（1．問題なし　2．ややあり（　　））

5．お子さんのご機嫌はいかがですか

（1．機嫌が良く　ほとんど泣かない　2．普通だと思う　3．よく泣く　）

6．お子さんの泣く意味は　どの程度わかりますか

（1．かなりよくわかる　2．だいたいわかる　3．あまりよくわからない　）

7．お子さんが泣いているとき　まず何をされますか

（1．まずだっこする　　2．まず何をしてほしいのかを見きわめ　対処する　3．どうしてあげたらよいのか　わからず迷うことが多い　　4．必要以上に手をかけないようにしている　　5．その他（　　））

8．お子さんの泣き声を聞いたとき　どんな気持ちがしますか

（1．胸が締めつけられ　せつなくなる　　2．自分をよんでいるように思う　3．1つの運動だと思うのであまり気にならない　　4．甘え癖をつけないように気をつけなければと思う　　5．その他（　　））

9．お子さんは　どんなときによく泣かれますか

（　　）

10．お子さんは　1回泣きだしたあと　あやしてから泣きやむまでの時間はどのくらいかかりますか

（1．すぐ泣きやみ　ご機嫌になる　　2．ちょっとぐずるが　わりあい早くご機嫌になる　　3．泣きやむまでかなり時間がかかる　　4．その他（　　））

11．授乳方法　　（1．母乳　　2．母乳とミルク　　3．ミルク　）

12．授乳時間　　（1．乳房が張ってきたら　与えるようにしている　　2．子どもの様子を見て与えるようにしている　　3．時間を決めて与えるようにしている　　4．その他（　　））

13．お子さんの食欲や食欲が満足されている状態の判断は　どの程度できますか

（1．子どもの表情からかなり正確に判断できる　　2．飲みっぷりから判断している　　3．特に判断するものはないが適当にやっている　　4．必要量を飲むか飲まないか　あるいは時間によって判断している　　5．その他（　　））

14．お子さんの食欲はいかがですか

（1．かなりある　　2．普通　　3．あまりない　）

15．乳を飲む量はいかがですか

（1．標準量より多い　　2．ほぼ標準量　　3．標準量はほとんど飲めない　4．その他（　　））

16．乳の飲む量について何か不安がありますか　　（1．はい　　2．いいえ　）

17．お乳の与え方　　（昼間）

（1．だっこして　　2．トッターにねかせて　　3．布団の上にねかせて　4．その他（テレビを見ながらだっこして，　　））

18．お乳の与え方　　（夜間）

（1．だっこして　　2．トッターにねかせて　　3．布団の上にねかせて　4．その他（　　））

19．おむつの交換時間の判断をどのようにしていますか

（1．子どもの表情や泣きなどを判断の手がかりとしている　　2．時間を決めてかえるようにしている　　3．その都度適当におむつをみて濡れていればかえてやる　4．その他（　　））

20．お子さんの排尿の時間の見当はどのくらいついていますか

（1．かなり正確につく　　2．まあまあ　　3．あまりつかない　）

２１．お子さんの排便の時間の見当はどのくらいついていますか

（１．かなり正確につく　２．まあまあ　３．あまりつかない　）

２２．使っているおむつの種類は何ですか（昼間）

（１．布おむつ　２．紙おむつ　３．その他（　　））

２３．使っているおむつの種類は何ですか（夜間）

（１．布おむつ　２．紙おむつ　３．その他（　　））

２４．おむつを昼間　何回位かえてあげますか　（　　）回

２５．おむつを夜間　何回位かえてあげますか　（　　）回

２６．お子さんを寝かしつけるときの配慮としてどんなことに気をつけていますか

（１．専用の寝室　２．部屋を暗くする　３．騒音をたてないようにする
４．子守唄を歌う　５．お話をする　６．静かに体をたたくなど
７．だっこして眠ってから布団に入れるようにしている　８．一人で寝かすようにしている　９．その他（　　））

（　遊びについて　）

１．お子さんは　どんなことをしてもらうのが好きですか

（　　）

２．お気に入りのおもちゃがありますか　（１．はい　２．いいえ　）

３．そのおもちゃは何ですか

（　　）

４．おもちゃを買うとき　おとこ色おんな色など気にしますか

（１．はい　２．いいえ　）

特に　どなたがそうですか　（　　）

５．お母さんと一緒に過ごされる時間はどの位ですか（平日）

約　　時間　　分位

その時間は主にどんなことで過ごされていますか（平日）

（　　）

６．お母さんと一緒に過ごされる時間はどの位ですか（休日）

約　　時間　　分位

その時間は主にどんなことで過ごされていますか（休日）

（　　）

７．お父さんと一緒に過ごされる時間はどの位ですか（平日）

約　　時間　　分位

その時間は主にどんなことで過ごされていますか（平日）

（　　）

８．お父さんと一緒に過ごされる時間はどの位ですか（休日）

約　　時間　　分位

その時間は主にどんなことで過ごされていますか（休日）

（　　）

（　お子さんへの期待　）

1．お子さんの名前は　どなたがつけられましたか　（　　）

2．その名前には　何か特別な意味がこめられていますか　（1．はい　　2．いいえ　）

それはどんな意味ですか

（　　）

3．お子さんはどんな（性格，特徴）お子さんですか

（　　）

4．生れたばかりの時のお子さんに対する気持ちと　今のお子さんに対する気持ちをくらべると何か違うものがありますか

（1．はい　　2．いいえ　）

それはどんなことですか

（1．父親（　　）

2．母親（　　）

3．その他（　　））

5．お子さんを育てるうえで　今まで何か困ったことがありましたか

（1．はい　　2．いいえ　）

それはどんなことですか

（　　）

どなたに相談されましたか

（　　）

今はもう　そのことは心配でなくなりましたか

（1．はい　　2．いいえ　）

6．お子さんには　どんな（性格や能力をもった）人になってほしいですか

（1．父親（　　）

2．母親（　　）

3．その他（　　））

7．お子さんには　どんな（性格や能力をもった）人になってほしくないですか

（1．父親（　　）

2．母親（　　）

3．その他（　　））

8．お子さんには　どんな職業についてほしいと思いますか

（1．父親（　　）

2．母親（　　）

3．その他（　　））

9．お子さんには　どの程度の学校まで行かせたいと思いますか

（1．父親（　　）

2．母親（　　）

3．その他（　　））

（　子ども観　）

1．子どもというものは　放っておくといたずらをしたり　勝手気ままなことをする人間になりかねないので　小さい時から厳しくしつけた方がよい

（1．全くその通り　　2．そう思う　　3．どちらともいえない
4．そう思わない　　5．全く違っている　）

2．子どものやることは　いたずらなども年とともに自然に良い方へ向かうものであり　あまり厳しすぎると，子どもを卑屈にしたり　伸びる芽をつんでしまうことにもなりかねないので余程のことがない限り　やりたいようにさせておいた方がよい

（1．全くその通り　　2．そう思う　　3．どちらともいえない
4．そう思わない　　5．全く違っている　）

3．子どもは生れた時は　いわば無地無色であり　どういう人間になるかは　生れた後の環境や経験によって決まるものである

（1．全くその通り　　2．そう思う　　3．どちらともいえない
4．そう思わない　　5．全く違っている　）

（　その他　）

1．出産後　何日目に現在地に帰ってきましたか

日目

2．育児日記をつけていますか　　（1．はい　　2．いいえ　）

3．父親学級に参加したことが何か役立っていますか

（1．はい　　2．いいえ　）

それはどんなことですか

（　　）

どんなことを教えてほしかったと思いますか

（　　）

4．母親学級に参加したことが何か役立っていますか

（1．はい　　2．いいえ　）

それはどんなことですか

（　　）

もっと　どんなことを教えてほしいと思いますか

（　　）

5．母親学級に何回参加しましたか

3回中　　回

6．どんな時　お子さんをかわいいと思いますか

父親（　　）

母親（　　）

7．育児は楽しいですか　　（1．はい　　2．どちらともいえない　　3．いいえ　）

それはどうしてですか

（　　）

母親用 1　　資料No. 7

調査年月日：　昭和　　年　　月　　日
記入者氏名：
お子さんの年齢：　　歳　　カ月

1．前回の訪問時からこれまでの生活（育児）についての特記事項
　（　環境の変化・病気・その他　）
　（　体重　）
2．最近の１日のスケジュール

0　2　4　6　7　8　10　12　14　16　18　20　22　24

・授乳（離乳食）の規則性
・睡眠
・入浴
・父親の出勤・帰宅

3．現在の育児について
1）授乳
① 現在は，母乳・ミルク・混合のいずれですか
母乳→母乳はどれくらい続けるつもりですか
（ミルクに切りかえることを考えていますか）

混合

ミルク→２カ月以降に変わった場合，どのような経過で，現在のようになりましたか
② 授乳のタイミングはどのように判断していますか
a　子どもが要求したら（泣いたら）いつでも与える
b　子どもが要求したら時間をみて与える（必ずしも時間に左右されない）
c　時間決めで与える（子どもが要求しても時間になるまで待たせる）
2）離乳食
① いつごろから離乳食を与え始めましたか
② 現在はどんなものを与えていますか，特に好き嫌いはありますか
③ 離乳食を与える上で苦労していること，困難なことはありますか

3）その他

① お子さんが，次の状態のとき，お母さんは主にどうしていますか

＜目覚めているとき＞	＜眠っているとき＞	＜ぐずったり，泣いたとき＞
a そばにいて相手をする	a できるだけそばにいる	a すぐ手をかける
b 何かしながらときどき様子をみる	b そばにはいないが，ときどき様子を見に行く	b 泣き方など，少し様子をみてから
c ひとりにしておく（機嫌が悪くないかぎり）	c 眠っている間は気にしない	c かなりひどい泣きでないかぎりはしばらく手を出さない

② 現在，育児をしていて，困難に感じること，心配なことはありますか
また，それについて，こうなってほしいと考えていることはありますか

（例）・相手をしないと機嫌が悪い
・夕方ぐずる，夜泣きをする
・寝つきが悪い

4．環境

1）社会的環境

① 近所の人や親せきの人が来訪したり，こちらから訪問することが週に1回程度はありますか

a はい　　b いいえ

（どんな人がどれくらい）

② 1週間に1回以上，買物で外へ連れていきますか

a はい　　b いいえ

③ 天気のよい日には，1日に1回は外に連れていきますか（散歩など）

a はい　　b いいえ

2）物理的環境

① お子さんのおもちゃを見せてください

a 普段，お子さんに遊ばせているのはどれですか

・大筋活動を使うおもちゃ

・手で持ったり，押したりする小さなおもちゃ

・目と手の協応のためのおもちゃ
＜おもちゃの出し入れができる＞

＜ブロックなど＞

b お子さんに（まだ）遊ばせていないのはどれですか

5．子どもについて

1）機嫌のよさ，扱いやすさ

① お子さんは，空腹でなく，おむつも濡れていないのに，泣く（ぐずる）ことがありますか

a よくある　b ときどきある　c たまにある　d ない

② 泣いたとき，お母さんがなだめなくても自分で指しゃぶりなどして泣きやむことがありますか

a よくある　b ときどきある　c たまにある　d ない

③ 泣いたとき，お母さんがなだめてもなかなか泣きやまないことがありますか

a よくある　b ときどきある　c たまにある　d ない

④ いつも決まった時間になるとぐずるというようなことはありますか

⑤ あなたのお子さんは，機嫌のよい子だと思いますか

⑥ あなたのお子さんは，扱いやすい子だと思いますか

2）子どもの社会的反応

① お子さんは，お父さん・お母さんのことを他の人と区別してわかっているようですか

＜お父さん＞

a 父親がわかっている様子である

b まだわからないようである

c まだなんともいえない

＜お母さん＞

a 母親がわかっている様子である

b まだわからないようである

c まだなんともいえない

② お子さんはよそのおとなの人があやしたときどのようにしますか

a 声をたててわらう

b かすかにわらう

c まじめな顔をして相手をみる

d べそをかく

e 大きな声で泣く

f 特に変化をみせない

g なんともいえない

6．父親の育児参加について

① ご主人は，家事や育児をどの程度してくださいますか

	よくする	ときどきする	めったにしない
a 家事（具体的に　　）			
b 食事を与える（ミルク・ジュース・離乳食など）			
c おむつをとりかえる			
d お風呂に入れる			
e 一緒に遊ぶ			
f お子さんと2人で留守番をする			
g その他（　　）			

② ご主人の育児への参加度についてあなたはどの程度満足していますか

（　　）％

③　お子さんについてご主人と話すことはどのくらいありますか

	よくする	ときどきする	めったにしない
a　1日のお子さんの様子について			
b　育児の方針やお子さんの将来について			
c　その他（　　）			

④　あなたは育児についてどのように考えますか。またご主人はどう考えていると思いますか

a　育児は両親が協力して行うもので父親も積極的に参加すべきである

b　育児は主に母親の役割であって，父親は必要に応じて参加する程度でよい

c　どちらともいえない

＜ご主人の考えについて＞
（　　）

⑤　あなたはご主人との間に育児についての考え方のズレを感じることはありますか

a　よくある　　b　ときどきある　　c　たまにある　　d　ない

（具体的に　　）

7．現在，あなたの赤ちゃんに対する感じはどうですか。次にある対のことばでみた時に，どの段階にあてはまりますか。あなたの気持ちにありところに○をつけてください。

かわいい		にくらしい
丈夫だ		こわれそう
だきしめたい		気味が悪い
いきいきしている		お人形のよう
しずかである		やかましい
手がかからない		世話がやける
美しい		みにくい

8．あなたの赤ちゃんの性質はどうですか。次にある対のことばでみた時に，どの段階にあてはまりますか。赤ちゃんの性質にありところに，例のように○をつけてください。

	そうである	そうであるどちらかといえば	いえないどちらとも	そうであるどちらかといえば	そうである	
（例）：元気がいい			○			おとなしい
活動的だ						おっとりしている
神経が太い						神経質である
気が強い						気がやさしい
気むずかしい						のん気そうだ
ねばり強い						あっさりしている
きかなそうだ						すなおそうだ
明るい感じ						暗い感じ
あたたかい感じ						つめたい感じ
男らしい						女らしい

9．お子さんを育てながら，次のようにお感じにる（なった）ことがありますか。

1．よくある　2．時々ある　3．たまにある　4．全くない

の中から選んで該当するところに○をつけてください。

	1 よくあった	2 時々あった	3 たまにあった	4 全くなかった
（例）：子どもを生んでよかった		○		
1．育児の自信がなくなる				
2．充実感がある				
3．自分の関心，時間を子どもにとられて視野が狭くなる				
4．子どもこそ生きがいだ				
5．子どもがいなければよかったと思う				
6．自分のやりたいことができなくてあせる				
7．子どもをもって自分も成長できた				
8．育児ノイローゼになる心境に共感できる				
9．自分の中で最も重要なのは子どもだ				
10．なんとなくイライラする				
11．子どもは自分の体の一部のような感じだ				
12．子どもさえいれば幸せだ				

母親用 2　　資料No. 8

調査年月日：　昭和　　年　　月　　日
記入者氏名：
お子さんの年齢：　　歳　　カ月

1．前回の訪問時からこれまでの生活（育児）についての特記事項
　（　環境の変化・病気・その他　）
　（　体重　）
　（　運動発達　）

2．最近の１日のスケジュール

0　2　4　6　7　8　10　12　14　16　18　20　22　24

・食事の規則性
・睡眠
・入浴
・父親の出勤・帰宅

3．最近の育児について

1）食事
　① 離乳食の回数は何回ですか。与える時間は一定していますか
　② 離乳食はどのようなものを与えていますか
　　（母親が作るか。ベビーフードを主に使うのか）
　③ 特に好き，嫌いはありますか
　④ 離乳食以外は母乳・混合・ミルクのいずれですか
　⑤ 食事について苦労していること，困難なことはありますか

2）排泄
　① おむつかえはどのようにしていますか
　　（子どもがおむつの汚れに対して反応を示すかどうか，
　　子どもの様子でわかるかどうか）
　② トイレットトレーニングについて，今から何か考えてますか
　　（いつごろから，あるいはいつごろまでには，など）

3）睡眠
　① 昼寝はあわせてどれくらいしますか
　　（何回で，または一度にどれくらいか。あるいは不規則か）
　② 寝つかせるときはどのようにしますか
　　（寝つくまでそばで何らかのかかわりをするか。ひとりで寝つかせるか）

③ 寝つきはよいですか
（寝ぐせはあるか。夜泣きはするか）

4．最近の子どもの生活について（日中の過ごし方，物理的環境を含む）

① お子さんが次の状態のとき，お母さんは主にどうしていますか

＜目覚めて機嫌のよいとき＞	＜機嫌のよくないとき＞	＜泣いたり，ぐずったときの反応＞
a そばにいて相手をする	a （同左）	a すぐに泣きやませようと働かける（抱く，あやす）
b 何かしながらときどき様子をみる	b 〃	b 声をかける程度で様子をみる
c ひとりにしておく（遊ばせておく）かぎり）	c 〃	c かなりひどい泣きでないかぎりはしばらく放っておく

② お母さんがお子さんの相手をするとき，主にどんなことをしますか

③ お子さんが最も喜ぶ活動は何ですか（人との接触か。物で遊ぶことか）
おもちゃ，身体を使った遊び，おもちゃ以外のもの

④ お子さんのおもちゃを見せてください

・大筋活動を使うおもちゃ

・手で持ったり，押したりするおもちゃ

・目と手の協応のためのおもちゃ
＜おもちゃの出し入れができる＞
＜ブロックなど

・その他

⑤ ＴＶ，ラジオ，レコードについて
（与えているかどうか，子どもの反応はどうか）

5．父親の育児参加について

① ご主人は，家事や育児をどの程度してくださいますか

	よくする	ときどきする	めったにしない
a 家事（具体的に　　）			
b 食事を与える（ミルク・ジュース・離乳食など）			
c おむつをとりかえる			
d お風呂に入れる			
e 一緒に遊ぶ			
f お子さんと２人で留守番をする			

② 平日（Fが仕事のある日），ご主人がお子さんと過ごす時間はどれ位ありますか

約　　時間　　分位

③ 休日，ご主人がお子さんと過ごす時間はどれ位ありますか

約　　時間　　分位

④ ご主人が家にいて．お子さんが次の状態のとき，ご主人は主にどうしていますか

＜目覚めて機嫌のよいとき＞	＜機嫌のよくないとき＞	＜泣いたり，ぐずったときの反応＞
a　そばにいて相手をする	a　（同左）	a　すぐに泣きやませようと働かける（抱く，あやす）
b　何かしながらときどき相手をする	b　〃	b　声をかける程度，あるいはMにあやすように言う
c　ひとりにしておくかMにまかせておく	c　〃	c　かなりひどい泣きでないかぎり放っておく

⑤ ご主人がお子さんの相手をするとき，主にどんなことをしますか

（　　）

⑥ ご主人の育児への参加度（遊びその他，子どもへのかかわり方を含めて）についてあなたはどの程度満足していますか

（　　）％

⑦ ご主人との間に育児についての考え方のズレを感じることはありますか

a　ある　　b　ない

・　強く感じる

・　ある程度

・　少し

aの場合

具体的にはどんなことですか

6．社会的環境と子どもの反応

① 近所の人や親戚の人が来訪したり，こちらから訪問することが週に1回程度ありますか

a　はい　　b　いいえ

（どんな人が，どれくらい）

② 1週間に1回以上，買物に連れていきますか

a　はい　　b　いいえ

③ 天気のよい日には1日に1回は外へ連れていきますか（散歩など）

a　はい　　b　いいえ

④ お子さんは，お父さん・お母さんのことを他の人と区別してわかっているようですか

＜お父さん＞

a わかっている様子である
b まだわからないようである
c なんともいえない

＜お母さん＞

a わかっている様子である
b まだわからないようである
c なんともいえない

⑤ お父さんとお母さんとで反応が違いますか
（あと追い，遊んでいるときの様子，ぐずったときのおさまりかたなど）

⑥ お子さんはよその大人に大して主にどんな反応をしますか

A 最初の反応（あやされたとき）

a 声をたてて笑う
b かすかに笑う（ほほえむ）
c まじめな顔をして相手を見る
d べそをかく
e 大声で泣く
f 特に変化なし

B 人によって反応が違うということがありますか
（特にこういう人はダメとか）

⑦ 見慣れない場所（よその家など）へ連れていったとき，お子さんは次のうち，どのような様子ですか

a すぐ慣れて遊ぶ（家にいるときとほとんど変わらない）
b 少しおとなしくなるが，まもなく慣れる
c ある程度時間がたてば家にいるときのように遊べる
d かなり時間がたたないと慣れにくい
e 見慣れない場所では、最後まで，家にいるときのようにはならない

7．子どもの機嫌のよさ

① お子さんがぐずったり，泣いたりすることはよくありますか（空腹や，おむつの汚れ以外で）

（理由）	よくある	ときどき	たまに	ない
ねむたい				
相手をしてほしい				
よくわからないが機嫌が悪い				

② 泣いたときはなだめなくても自分でおさまることはありますか

③ 泣いたときなだめてもなかなかおさまらないことはありますか

④ 決まった時間にぐずるということはありますか

⑤ お子さんは機嫌のよい子だと思いますか

思う	どちらかといえばそう	どちらともいえない	どちらかという思わない	思わない

⑥ お子さんは扱いやすい子だと思いますか

⑦ 現在，育児（子どもについて），困難に感じること，心配なことはありますか

⑧ お子さんについて自慢に思うことがありますか

8．現在，あなたの赤ちゃんに対する感じはどうですか。次にある対のことばでみた時に，どの段階にあてはまりますか。あなたの気持ちにありところに○をつけてください。

かわいい		にくらしい
丈夫だ		こわれそう
だきしめたい		気味が悪い
いきいきしている		お人形のよう
しずかである		やかましい
手がかからない		せわがやける
美しい		みにくい

9．あなたの赤ちゃんの性質はどうですか。次にある対のことばでみた時に，どの段階にあてはまりますか。赤ちゃんの性質にあうところに，例のように○をつけてください。

	そうである	どちらかといえば	そうである	いえない	どちらとも	そうである	どちらかといえば	そうである	
（例）：元気がいい					○				おとなしい
活動的だ									おっとりしている
神経が太い									神経質である
気が強い									気がやさしい
気むずかしい									のん気そうだ
ねばり強い									あっさりしている
きかなそうだ									すなおそうだ
明るい感じ									暗い感じ
あたたかい感じ									つめたい感じ
男らしい									女らしい

１０．お子さんを育てながら，次のようにお感じにる（なった）ことがありますか。

１．よくある　　２．時々ある　　３．たまにある　　４．全くない

の中から選んで該当するところに○をつけてください。

	1 よくあった	2 時々あった	3 たまにあった	4 全くなかった
（例）：子どもを生んでよかった		○		
１．育児の自信がなくなる				
２．充実感がある				
３．自分の関心，時間を子どもにとられて視野が狭くなる				
４．子どもこそ生きがいだ				
５．子どもがいなければよかったと思う				
６．自分のやりたいことができなくてあせる				
７．子どもをもって自分も成長できた				
８．育児ノイローゼになる心境に共感できる				
９．自分の中で最も重要なのは子どもだ				
１０．なんとなくイライラする				
１１．子どもは自分の体の一部のような感じだ				
１２．子どもさえいれば幸せだ				

父親用　　資料No. 9

調査年月日：　昭和　　年　　月　　日
記入者氏名：
お子さんの年齢：　　歳　　カ月

1．あなたは，赤ちゃんについて次の中のどのようなことをどの程度なさいますか，a～gのそれぞれのあてはまる欄に○をつけてください

	よくする	ときどきする	めったにしない
a　食事を与える（ミルク・ジュース・離乳食など）			
b　おむつをとりかえる			
c　お風呂に入れる			
d　だっこして散歩に連れて行く			
e　一緒に遊ぶ			
f　赤ちゃんと２人で留守番をする			
g　その他（　　）			

2．あなたは育児（子どもを育てること）についてどのように考えますか，あてはまる記号に○をつけてください

a　育児は両親が協力して行うものだから，自分も父親として積極的に参加しようと思う

b　育児は主に母親の役割だから，母親にまかせ，父親は必要に応じて参加する程度でよいと思う

c　どちらともいえない

3．現在，あなたの赤ちゃんに対する感じはどうですか。次にある対のことばでみた時に，どの段階にあてはまりますか。あなたの気持ちにあうところに○をつけてください。

	そうである	どちらかといえばそうである	どちらともいえない	どちらかといえばそうである	そうである	
（例）：小さい				○		大きい
かわいい						にくらしい
丈夫だ						こわれそう
だきしめたい						気味が悪い
いきいきしている						お人形のよう
しずかである						やかましい
手がかからない						世話がやける
美しい						みにくい

4．あなたの赤ちゃんの性質はどうですか。次の対のことばでみたときにどの段階にあてはまりますか。赤ちゃんの性質にありところに○をつけてください。

	そうである	どちらかといえば そうである	どちらともいえない	どちらかといえば そうである	そうである	
活動的だ						おっとりしている
神経が太い						神経質である
気が強い						気がやさしい
気むずかしい						のん気そうだ
ねばり強い						あっさりしている
きかなそうだ						すなおそうだ
明るい感じ						暗い感じ
あたたかい感じ						つめたい感じ
男らしい						女らしい

5．あなたは，赤ちゃんについて，奥様と話すことがどの位ありますか。次の各項目について，あてはまる欄に○をつけてください。

	よくある	ときどきある	めったにしない
a　1日の赤ちゃんの様子について			
b　育児の方針や赤ちゃんの将来いついて			
c　その他（　　）			

6．あなたは，育児についての考え方について、奥さまとの間にズレを感じることはどの位ありますか。あてはまる記号に○をつけてください。

a　よくある　　b　ときどきある　　c　たまにある　　d　ない

差し支えなければ，具体的にどのようなことかお教えください

行動評定１　　資料No.１０

＜父親・母親用＞

１．子どもへの働きかけの多さ（子どもに話しかけたり，おもちゃを与えたり，子どもの手足を動かしてあやすことが多いかどうか）

⑤　相互交渉の間，絶えず上のような刺激を与えている

④　⑤よりやや程度が少ない

③　上のような刺激を与えるのと，じっとみているのとが半々である

②　①よりやや程度が少ない

①　ほとんど刺激を与えず，そばにいて子どもの様子をみているだけの方が多い

２．応答性の程度（子どもからの行動に対して，必ずしも働きかけの意図がなくても，それを認め、応答しているかどうか）

⑤　いつもきまって応じる

④　応じるとが多い

③　応じることと，応じないことが半々位である

②　応じないことが多い

①　ほとんど応じていない

３．注意を払う程度（子どもに気を配り，関心を払っている程度について，子どもの気持ちを解釈するかどうかについて）

⑤　子どもの様子，発声，行動に対してよく気を配り，察しようとしている
（母親が一方的に自分の気持ちや理論を押しつける様子が全くない）

④　⑤よりやや程度が弱い

③　中程度

②　①よりやや程度が弱い

①　関心がきわめて弱いか，母親が一方的に押しつける様子がある

４．相互交渉のスムーズさ
（母と子の相互交渉のやりとりがスムーズに行われているかどうか）

⑤　子のやりとりにギクシャクしているところがまったくみられない。非常にしっくりいっているという感じ

④　⑤よりやや程度が弱い

③　中程度

②　①よりやや程度が弱い

①　子とのやりとりがギクシャクしていて，相互交渉がスムーズでないという印象を受ける。殆ど一方的で，相互交渉としてのやりとりにならない）

５．相互交渉における楽しさの程度（子どもとのやりとりを楽しんでいるか否かについて）

⑤　子どもの行なった行動や流れを受け入れたり，子どものやりとりに対して，肯定的な態度を持っている

④　⑤よりやや程度が弱い

③　中程度

②　①よりやや程度が弱い

①　子どもの行なった行動を拒否したり，子どもとのやりとりで否定的な感情を表したり

言動を示す。楽しそうではない

6．子どもへの接近の程度

⑤　いつも子どものそばにいて，子どもとの身体接触が多い。ベタベタしているという感じを受ける

④　⑤よりやや程度が少ない

③　中程度である（ベタベタともあっさりともいえない）

②　①よりやや程度が少ない

①　あっさりしている。子どもに身体接触をすることが少ない

7．リラックスの程度

⑤　始めからほとんど緊張している様子がなく，普段とかわりないような振舞いをしているという印象を受ける

④　⑤よりやや程度が弱い

③　やや緊張していたが，途中からリラックスしてきた

②　①よりやや程度が弱い

①　終始，母親は緊張しており，ほとんどリラックスしているという様子が感じられない（よそゆきという感じをうけた）。Sの方をチラチラとみて，気にしている

8．身体的遊び

⑤　ダイナミックな遊びをする

④　⑤よりやや程度が弱い

③　体をゆする（ひざや床の上で）

②　手遊びをする

①　なし

行動評定2　　資料No.11

<子ども用>

1．相互交渉における活動水準

（母との交渉の中でみられる子どもの活動性の程度について）

⑤　子どもが活発に手・足を動かしたり，発声をさかんに行い，生き生きした感じを与える

④　⑤よりやや程度が少ない

③　中程度（それほど活発であるという感はないが，時々活発な動きをすることもある）

②　①よりやや程度が少ない

①　相互交渉の中で子どもが活発に活動しているという感じを受けない

2．母子相互交渉における楽しさの程度

（母とのやりとりの中で，子どもが楽しんでいるか否か）

⑤　相互交渉の中で，母親の働きかけを受け入れ，母親に対して，あるいは母親といることに肯定的な受けとめ方をしている

④　⑤よりやや程度が弱いが，全体として子どもが肯定的である

③　中程度。あるいはどういう感情を示しているのか不明である

②　①よりやや程度が弱い

①　相互交渉の中で，母親の働きかけを否定し，母親に対して，あるいは母親といることに対して否定的な受けとめ方をしている

3．応答性を求める程度（相互交渉の中で，母親からの応答性を求めようとし，積極的に働きかけようとするかどうか）

⑤　母親からの働きかけ（応答性）を期待して，積極的に母親に向かって発声や動作，注視を向け，働きかける

④　⑤よりやや程度が少ない

③　中程度（それほど積極的に母親から応答性を求めようとしない）

②　①よりやや程度が少ない

①　ほとんど母親の応答性を求めるしぐさをしない

4．子どものムード（機嫌の良さ）

⑤　観察の間、ずっと機嫌良くふるまっており，ぐずったりすることがない。母親が機嫌をなおすために苦労するというエピソードはみられない

④　⑤よりやや程度が少ない。多少のぐずりはみられるが，基本的には機嫌良くふるまっているという印象をうける

③　中程度。ぐずったりすることもみられる。また機嫌が良い時もある

②　①よりやや程度が少ない

①　観察の間，全体として機嫌が悪いという印象をうける。ぐずったり，べそをかいたり泣いたりすることがしばしばあり，母親がなだめることがしばしばあった

5．活動の増減

⑤　明らかに増大

④　⑤よりやや程度が少ない

③　変化なし

② ①よりやや程度が少ない

① 明らかに減少

6．泣きの状況

⑤ 強く長い

④ ⑤よりやや程度が少ない

③ 泣きの持続が短い

② ぐずる程度

① なし

7．F・Mを接し求める

⑤ 後追い

④ しばしば入口の方をみる

③ 時々，入口の方をみる

② ①よりやや程度が少ない

① 全く気づかない

8．F・Mの呼び声への反応

⑤ 入口まで迎えに行く

④ 明かに喜ぶ。泣く。手を差し出す

③ 声の方を注目するが（入室したMをチラリとみる），表情には特に喜ぶ様子はない

② ①よりやや程度が少ない

① 無視

9．なだまりやすさ

⑤ 自分でたち直れる

④ だっこされるとすぐ直す

③ だっこされると間もなく直す

② だっこされてもなかなか直らない

① 全く効果なし

10．喜びの状況

⑤ 機嫌よく，表情も豊かである

④ 表情は特に変化がない

③ ぐずることも少ないが，機嫌の良いことも少ない

② ①よりやや程度が少ない

① 全体として機嫌が悪いという印象を受ける。なだめることがしばしばある

11．身体的接触

⑤ しがみつきが長い傾向にある

④ 比較的長い

③ 半々位である

② ちょっと触れる程度

① なし